ISSN. 0385-406X

東北學院大學論集

C

English Language & Literature

March 2016

東北学院大学学術研究会

東北学院大学論集 第一〇〇号 —英語英文学— (二〇一六・三)

Essays and Studies

in

English Language & Literature

No. 100

March 2016

東北学院大学学術研究会

表紙の題字は

元本学教授・文学部長　小林　淳男　先生

目　　次

論文

1. 日本人英語学習者の文法力測定のための診断テスト開発
……村野井　仁　（　1）

平成 **27**（**2015**）年度文学部英文学科公開講義
「周縁の文学と文学の周縁」**Proceedings**

1. 周縁化に抗う ―― Aphra Behn, *Love-Letters between a Nobleman and his Sister* を読む……福士　航　（ 47）

2. 周縁から中心へ，そして中心なき周縁へ ―― Muriel Spark の *The Go-Away Bird* を読む
……遠藤　健一　（ 59）

3. 固有名の剥奪，名づけえぬものの歓待 ―― ジョゼフ・コンラッド「ある船の話」の “room” における周縁
……井出　達郎　（ 87）

4. ユートピアという／の周縁と「希望の原理」
……川田　潤　（ 95）

執　筆　者　紹　介　（執筆順）

村野井　　仁　本学文学部　教授

福　士　　航　本学文学部　准教授

遠　藤　健　一　本学文学部　教授

井　出　達　郎　本学文学部　准教授

川　田　　潤　福島大学　教授

日本人英語学習者の文法力測定のための診断テスト開発[1]

村野井　　仁

文法力は語彙力とともに人間のコミュニケーション能力の根幹を構成するものである。コミュニケーション能力の構成要素を記述している Canale and Swain（1980）や Backman（1990）および Backman and Palmer（1996）などにおいても文法力はその中核に置かれている。文部科学省が日本の教育のガイドラインとして示す『中学校学習指導要領』（文部科学省 2008）および『高等学校学習指導要領』（文部科学省 2009）にも文法はコミュニケーションを支えるものという文言が掲げられ，文法の重要性が強調されている。

第二言語コミュニケーションの基盤となる文法力であるが，日本人英語学習者の多くが十分な文法力を育てていないことは，英語教育現場においてしばしば指摘されることである。基礎的な文法知識が十分学習されていないことに加えて，一定の文法知識はあるがそれを実際の言語使用の場面で活用する文法運用能力が身についていないことが多くの日本人英語学習者が抱える問題であることは，経験的に明らかである。

文法習得がうまくいかない原因は，多くの場合，指導する教員の側にあると考えられる。文法事項の形式面だけを教えて，意味や機能を適切に教えないケース，文法の規則だけを講ずることに止まって運用能力まで育てようとしないケース，適切な言語記述を学習者に提示しないケースなど，さまざまな指導上の問題が考えられる。このような問題への対策を考える

上で示唆に富むのは，「指導を受けた第二言語習得研究」（instructed second language acquisition research）の知見である。この研究領域では，効果的な文法指導のあり方に関する実証的研究が蓄積されてきており，文法指導の適切な方法やタイミングについて教室実践に活かすことのできる知見が少しずつではあるが示されるようになってきている（Doughty, 2003；Norris & Ortega, 2000；Spada & Tomita, 2010；田中・田中 2014 など参照）。

効果的な文法学習を促すためには，第二言語習得理論に基づいた指導法の開発とともに学習者の文法能力を測定する診断テストの開発が必要となる。初級および中級レベルの英語学習者が身に付けるべき文法事項をバランスよく含んで，文法運用能力まで簡便に測定できる文法力テストがあれば，学習者の文法力レベルを指導者が適切に把握し，それに合わせた指導を展開することが可能になる。本稿では，中級レベルの日本人英語学習者の文法能力を測定するために筆者が開発した口頭および筆記文法力診断テストを紹介し，そのテストで測られた文法力が総合的な英語熟達度とどのような関係を示すのか，日本人英語学習者にとって習得が難しい文法事項にはどのような特徴があるのか，などの課題について考察する。

1.　第二言語習得研究における文法

本稿で紹介する英語文法力診断テストは，文法習得に関する第二言語習得理論に基づいて開発されたものである。関連する先行研究としては，文法力のとらえ方，文法発達順序，文法テストに関するものが中心となる。以下はその概要である。

1.1　文法力のとらえ方

文法（grammar）とは，「その言語を母（国）語とする理想的な話者・聴者のもっているその言語に関する知識…の体系」を意味する（大塚・中島編 1987）。この言語知識の体系が何によって構成されるのかは，言語学者によってとらえ方が異なる。Leech（1983）は，音韻（phonology），統語（syntax）および意味（semantics）によって「文法」（grammar）が構成されるとみなしている。文法力の包括的測定のためのモデルを提案している Purpura（2004）は，文法知識に含まれるものとして，音韻的・書記的形式，語彙的形式，形態統語的形式（以上は文レベル），結束的形式，情報運用的形式，相互交流的形式（以上は談話または文を超えたレベル）とそれぞれが表す意味を挙げている。

コミュニケーション能力（communicative competence）の定義を試みた Canale and Swain（1980）および Canale（1983）においては，文法能力（grammatical competence）は音韻，語彙，統語および意味に関する言語知識として定義され，他の社会言語能力，談話能力および方略能力とともにコミュニケーションを支えるものとして扱われている。

Bachman（1990）および Backman and Palmer（1996）は，言語テストの観点から第二言語使用者の言語使用能力を総合的に定義している。そのモデルでは言語能力（language ability）は，言語知識（language knowledge）と方略能力（strategic competence）によって成り立つと考えられている。言語知識を構成するのは構成知識（organizational knowledge）と語用知識（pragmatic knowledge）である。前者の下位知識として文法知識（grammatical knowledge）とテキスト知識（textual knowledge）が位置づけられており，ここで文法知識は，学習者個人の語彙，統語，音韻・文字の知識の総体であると定義される。テキスト知識は，結束性（cohesion），談話構成，

会話構成などに関わる文を超えた談話に関わる言語知識を意味する。言語知識と並立する語用知識（pragmatic knowledge）は，言語知識を活用してなんらかの機能を果たすための機能知識（functional knowledge）と言語知識を言語使用の状況に合わせて適切に使用するための社会言語知識（socio-linguistic knowledge）から成り立っていると考えられている。このように音韻や語彙も文法の構成要素とみなす立場もあるが，本稿では，Quirk, Greenbaum, Leech and Svartvik（1985）に従い，文法は統語と形態（morphology）によって構成されると捉えることとする。

文法テスト開発の観点からは，文法を形式（form），意味（meaning）そして使用（use）の3つの次元からとらえる文法観も極めて重要である（Larsen-Freeman, 1991, 2003）。使用とは社会的な機能（social function）を含む概念であり，この次元が文法力（grammaring）の定義に加わることによって，形式の理解やコンテクストから切り離された文の意味理解に留まってしまう文法指導や文法学習が不十分なものであることを認識することができるようになる。この文法力の定義に従えば，文法テスト開発のねらいは文法形式がどのような意味を伝え，そしてどのような機能を果たすためのものかを学習者が理解しているかどうか判定することとなる。

文法力の定義に関して，もう一つ押さえておくべきことは，文法知識と文法運用力の違いである。文法知識は学習者の内部にあっても，実際の言語使用に活用できない不活性の知識（inert knowledge）に留まっていることが多い（Larsen-Freeman, 2003）。知ってはいるけれど使えないという問題である。認知心理学に基づく第二言語研究者は，文法知識が宣言的知識（declarative knowledge）から手続き的知識（procedural knowledge）に変化する手続き化を経なければ，即応的に特に口頭で第二言語を使用する言語運用力は育たないと考えている（Johnson, 1996 ; Muranoi, 2007 参照）。

このような言語運用力を測定するためにはスピーキング・テストなどの実技テストを実施する必要があるが，時間と労力がかかるため実行可能性が低く，さらに特定の文法項目の誘出が難しいという問題がある。既習の文法項目を自動的に運用できるかどうかを効率よく測るテストの開発が求められている。

1.2　第二言語文法発達順序

第二言語習得（second language acquisition/SLA）研究において，文法の発達過程はさまざまな形で研究されてきている。1970 年代から 80 年代にかけて盛んに行われたのは文法形態素の習得順序に関する研究であった。これは，Brown（1973）が報告した第一言語としての英語獲得に見られた文法形態素の発達順序が，第二言語習得においても見られるのかどうかを中心的課題とするものであった。Dulay and Burt（1973）を皮切りに，数多くの実証的研究が行われ，その結果，母語や年齢，学習・習得環境に関わりなく，第二言語学習者は一定の順序で文法形態素を習得していくことが報告された（Ellis, 2008 ; 白畑・若林・村野井 2010）。このような共通する習得順序が見られるのは第二言語学習者が普遍的な言語獲得能力を使って母語にはない言語体系を創造的に構築するからだと主張する研究者も多かったが（Dulay, Burt & Krashen, 1982 など），文法形態素習得順序の研究には研究方法上の問題も多く，なによりもなぜこのような習得順序が生じるのかがほとんど説明されていないという理論上の大きな問題がある（Larsen-Freeman & Long, 1991）。[2]

第二言語文法習得においてみられる発達順序を，学習者の処理能力の観点から説明しようとする研究は，Pienemann を中心に 1980 年代から進められている。これは教授可能性仮説（teachability hypothesis）を土台とし

てその後，処理可能性理論（processability theory）として発展してきた文法習得への認知的アプローチである。

処理可能性理論では，第二言語学習者は発達のある時点において，学習者自身が処理できるものしか産出することはできないと考えられている（Pienemann, 1998, 2005）。処理可能性は一連の処理手順（processing procedure）によって明示化される。第二言語学習者が最初にできるようになる処理手順は語彙項目へのアクセスである。第 2 段階では，名詞の複数形などの句内での処理手順が可能になる。第 3 の段階では語彙項目間の文法的情報を交換する処理手順が行われるようになる。第 4 の段階では句間の文法情報を交換することができるようになる。Yes-no 疑問文の倒置など目立ち度合の高い（+saliency）ものが処理されるようになる。第 5 段階も句間の文法情報の交換の関わる処理であるが，このレベルでは三人称単数形現在の -s のような主語と動詞の一致による目立つ度合が低い（-saliency）ものの処理が可能になる。最終的な第 6 段階で主節と従属節を処理できるようになり，間接疑問文などが正しく使えるようになる。Pienemann は，これらの 6 つの発達段階をそれぞれの処理手順によって説明している。つまり，① 語彙項目が処理できること，② 語彙項目内に含まれている文法情報を処理できること，③ 語彙項目間で文法情報を交換して句が処理できること，④ 句と句の間で文法情報を交換して目立ち度の高い規則が処理できること。⑤ 目立ち度の低い規則に対して ④ と同じ処理ができること，⑥ 主節と従属節が処理できることの 6 つの処理手順によって文法の発達段階が定まると Pienemann（1998, 2005）は考えている。これらの段階には含意的階層性（implicational hierarchy）があり，下位の処理手順はより上位のものの前提条件となっていて，段階を飛び越えて上位の段階に行くことはないと予測されている。処理可能性理論は，ま

だ実証的研究によって十分な裏付けが取られてはいないものの，第二言語学習者の文法発達を言語処理上の観点から予測する上で極めて有益なものと考えられる。

処理可能性理論のようにさまざまな文法項目に適用することを目指したものに加え，特定の文法項目の発達順序を明らかにしようとする第二言語習得研究もある。Bardovi-Harlig（2000）は，時制（tense）と相（aspect）の発達順序について調査し，発達の早いものから遅いものへと次の発達順序を提示している：単純過去時制→過去進行相→現在完了相→過去完了相。

Anderson and Shirai（1996）およびLi and Shirai（2000）は，動詞の意味と時制および相との関係を分析し，過去時制の習得には以下の発達順序があると指摘している：直示的過去（達成動詞→遂行動詞→活動動詞→状態動詞→習慣あるいは反復過去）→仮定法あるいは語用的配慮表現。進行相に関しては，次の発達順序を予測する：変化（活動動詞→遂行動詞）→反復を表す進行相→習慣あるいは未来を表す進行相→状態を表す進行相→語用的配慮表現。これらの時制と相の発達順序に関する第二言語習得研究からは，動詞の意味素性の違いが文法的アスペクトの発達順序に大きな影響を及ぼすことがわかる。

英語熟達度のレベルごとにそれぞれのレベルの基準を示す文法的特徴を明示化する試みも進められてきている。Hawkins and Flipović（2012）は，Cambridge Learner Corpusの英語学習者データに基づき，英語熟達度ごとの段階を示す文法的特徴（critical features）を示している。このリストは，英語熟達度指標として幅広く使われているCEFR（Common European Framework of Reference, Council of Europe, 2001）に準拠している点において高い汎用性を持っている。文法項目が網羅されているわけではないが，

実際の学習者データ用いているため，文法発達段階を把握する上で重要な指標となっている。

British Council の EAQUALS（European Association for Quality Language Services, 2010）は，より実践的な資料に基づいて文法項目の配列を行い，中心的目録（core inventory）として提示している。英語教科書およびシラバスの分析および英語教師に対する調査に基づき，CEFR のレベルごとにコアとなる機能・概念，文法項目，談話標識，語彙項目，トピックを配列している。外国語としての英語ではなく第二言語としての英語の教育実践を土台にしたものなので，日本の英語教育環境への適応性に関しては精査が必要であるが，レベルごとの包括的なリストが提示されているので，第二言語としての英語文法発達の傾向を把握する上で有益である。

1.3　文法テスト

第二言語学習者の文法能力を測定するためのテストはさまざまな形で開発されている。Ellis（2009）は明示的および暗示的文法知識を測定するためのテストを構築し，異なる下位テスト同士の相関関係や英語熟達度テストとの相関関係を測って，文法テストとしての妥当性を検証している。テストされる文法項目は，英語習得の初期段階から後期段階まで様々な段階で習得されるものの中から，学習者の誤りが生じやすい形態的および統合的特徴を持つものが選ばれている。その数は 17 と限定的であるため英語学習者の総合的な文法力を測定するための力は弱いが，口頭模倣テストや筆記文法性判断テストなど口頭・筆記の両モードにおいて 5 つの異なる測定方法を用いて妥当性・信頼性の検証をしながら暗示的・明示的文法知識を測るテストを開発している点で参考になるものである。

日本人英語学習者の文法力を信頼性・実用性の高い方法で測定するため

のテストが金谷・英語診断テスト開発グループ（2006）によって実用化されている。これは中学・高校生を対象とした筆記テストで，名詞句の境界把握や内部構造の把握に関する設問によって文法知識を測るものである。テストとしての妥当性，信頼性および一次元性は十分確保されていることが報告されており，短時間で中学・高校生の文法知識を診断する目的のためには利用価値の高いテストになっている。しかしながら，測定対象が名詞句の理解能力に限定されていることは英語学習者の総合的な文法力を診断するためには限定的すぎると言わざるをえない。

TOEFL や TOEIC などの英語熟達度テストにおいても文法力は英語熟達度の構成要素となっており，文法的正確性（grammatical accuracy）または文法理解度という規準で測定されている。このような熟達度テストにおいては全体的な文法正確性の度合を把握することはできるが，英語学習者がどのような文法項目に躓いているのかを診断的に把握することはむずかしい。

以上のことから，第二言語習得研究が明らかにしてきた文法発達段階に関する知見に基づきながら，より包括的な文法項目に関して，日本人英語学習者の文法力を測り，文法習得度を診断するテストの開発が求められていることがわかる。本研究ではそのような目的で開発された文法診断テストを試行し，そのテストから得られるデータを分析して日本人英語学習者の文法習得についていくつかの検証を行う。

2. 研　究　課　題

本研究のねらいは日本人英語学習者の文法力を妥当性・信頼性を一定程度保ちながらも，実用性の高い方法で診断するために開発された文法力診断テストを試行し，改善のために必要なデータを収集することである。さ

らに，その診断テスト結果を用いて日本人英語学習者にとって習得困難な文法項目にはどのような特徴があるのかを明らかにすることがもう一つのねらいである。このため以下の 5 つの研究課題（research question）を設定する：

研究課題 1：文法力診断テストによって明らかになる文法項目の習得困難度の順序は，CEFR 準拠の文法配列順序と関係があるか。

研究課題 2：文法力診断テストによって測定された文法力の得点と英語熟達度テストによって測定された英語力の間には関係があるか。

研究課題 3：口頭文法力診断テストによって測定された習得困難度と筆記文法力診断テストによって測定された習得困難度の間に違いはあるか。

研究課題 4：文法力診断テストによって明らかになる習得困難度は文法発達順序に関する第二言語習得理論（処理可能性理論およびアスペクト仮説）によって予測することができるか。

研究課題 5：日本人英語学習者にとって習得困難な文法項目にはどのような特徴があるのか。

研究課題 1〜3 は文法力診断テストそのものの開発に関わるものである。研究課題 1 は，前述の EAQUALS が実践的な観点から文法項目を CEFR のレベルに合わせて配列したその順序と本研究で提案される文法力診断テストによって明らかになる習得困難度の順序が一定の一致をみるかどうかを検証するためのものである。研究課題 2 は，総合的な英語熟達度を測る TOEIC の得点と文法力診断テストの得点との間の関係をみることによって，本研究で開発された文法力診断テストが日本人英語学習者の英語力（の

一部）を適切に測定しうるのかどうかを検証するために設定されている。研究課題 3 は，口頭で行う英語力診断テストと筆記で行う英語力診断テストが日本人英語学習者の文法力を同じように測定し得るのかどうかを検証するためのものである。

研究課題 4 と 5 は文法力診断テストによって明らかになる習得困難な文法項目の特徴について調べるためのものである。研究課題 4 は，処理可能性理論（Pienemann, 1998, 2005）およびアスペクト仮説（Li & Shirai, 2000 ; Bardovi-Harlig, 2000）によって示されている発達順序が，日本人英語学習者の文法習得困難度と一致するかどうかを検証するためのものである。研究課題 5 は，日本人英語学習者にとって習得困難である文法項目を文法力診断テストによって探し出し，それらの文法項目に共通する特徴を明らかにするために設定されている。

3. 研　究　方　法

3.1　文法力診断テスト

日本人英語学習者が中学校および高等学校の英語授業において学習する文法項目の中から 36 項目を選び，それらを一定の言語使用の場面において産出できるかどうかを測定するテストを開発した。

表 1 は選定された文法項目を示す。指導時期は平成 24 年度版中学校英語検定教科書 *New Horizon English Course*（東京書籍）および平成 25 年度版高等学校英語検定教科書 *Genius English Communication*（大修館書店）を参考に特定した。CEFR のレベルは EAQUALS（2010）に従っている。

表 1 に示した 36 の文法項目を談話完成型の問題に組み込み，当該の文法項目の使用を誘出した（Appendix A 参照）。問題は全てパワーポイントでスクリーンに表示される。問題文が提示されるのは 20 秒間で，指示文

表１　文法力診断テストに含まれた文法項目

項目番号	文法項目	機能	文例	指導時期	CEFR
〈疑問に関わる項目〉					
19	Wh 疑問（主格・人）	質問する	Who broke the window ?	中２	B1
23	Wh 疑問（主格・物）	質問する	What happened to him ?	中２	B1
8	Wh 疑問（倒置・項）	質問する	What are you reading ?	中１	A2
24	Wh 疑問（倒置・付加）	質問する	Why are you laughing ?	中２	A2
26	間接疑問（where ＋一般動詞）	質問する	Do you know where Mr. Tanaka lives ?	中３	B2
11	間接疑問（where + be 動詞）	質問する	Could you tell me where the library is ?	中３	B2
15	間接疑問（補文標識 if）	質問する	Do you know if Cathy will come tomorrow ?	高１	B1
17	間接疑問（I wonder if …配慮表現）	依頼する	I was wondering if you could help me…	高１	B2
2-1	疑問詞＋名詞	質問する	What food do you like ?	中１	（A2）
9	付加疑問	確認する	…, didn’t he ?	高１	B1
〈時制と相に関わる項目〉					
1-1a	単純過去（規則変化・動作動詞）	報告する	I enjoyed skiing.	中１	A1
1-2	単純過去（規則変化・動作動詞・埋め込み文）	報告する	The lodge where we stayed was gorgeous.	中１	A2
25	単純過去（規則変化・達成動詞）	伝える	You dropped something.	中１	A1
1-3	単純過去（不規則変化・動作動詞）	報告する	The owner spoke Japanese fluently.	中１	（A1）
6	単純現在（規則変化・動作動詞）	答える	I study before dinner every evening.	中１	A1
21	単純現在（規則変化・状態動詞）	答える	I belong to the music club.	中１	A1
5	現在進行相（動作動詞）	報告する	He is studying in the library.	中１	A1
22	現在進行相（達成動詞）	描写する	The temperature is falling down.	―	A1
2-2	現在完了相	質問する	Have you eaten sukiyaki ?	中３	A2
7	過去完了相	報告する	… the goldfish had already died.	高１	B2
20	過去進行相	報告する	I was taking a bath.	中２	A2
2-3	未来表現	質問する	When will you go back to your… ?	中２	A2

表１　つづき

項目番号	文法項目	機能	文例	指導時期	CEFR
〈仮定法に関わる項目〉					
12	仮定法過去	叶わぬ願望を述べる	I wish I could speak English fluently.	高１	B2
14	仮定法過去完了（should have pp）	責める	You should not have eaten so much ice cream.	高１	B2
13	仮定法過去完了	後悔する	I wish I had gone to bed earlier last night.	高１	B2
〈関係節に関わる項目〉					
3-4	関係代名詞・主格	特定化する	Ms. Sato is an English teacher who speaks English well.	中３	B2
3-2	関係代名詞・目的格	紹介する	This is a picture that we all love.	中３	B2
3-1	関係副詞	説明する	This is a room where students use computers.	高１	B2
〈比較に関わる項目〉					
4-3	最上級　the -est	説明する	This is not the oldest temple in Japan.	中２	A2
4-2	最上級　the most	説明する	This is one of the most famous temples in Japan.	中２	A2
3-3	比較級　-er than	比較する	Is your school bigger than ours ?	中２	A2
16	比較級　more… than	比較する	Writing English is more difficult than speaking in English.	中２	A2
〈その他〉					
18	It is — to V	判断を伝える	It is difficult for me to write a letter in English.	中３	（B1）
4-1	受身形	説明する	This temple was built 200 years ago.	中３	B1
1-1b	動名詞	報告する	I enjoyed skiing.	中２	A1
10	現在分詞・後置修飾	特定する	The girl playing the flute is Mika.	中３	（B2）

が長い問題は25秒間提示される。筆記テストの場合には，受験者は解答用紙の空欄を英語で埋めるよう指示される。口頭テストの場合には，問題はすべてスクリーンに提示され，解答用紙はなく，Windows PCで音声処理ソフト（Sound It! 5.0）を録音状態にして，ヘッドセットに付けられたマイクに向かって文全体を発話するよう指示される。

口頭文法力診断テストは，口頭で文法を運用する能力をできるだけ実際の言語使用に近い状況で測定できるよう工夫している。自分が経験したことを他者に伝えたり，外国人に日本のことを伝えたり，質問や依頼をしたりというようにできる限り日常のコミュニケーションの中で果たす可能性が高いさまざまな機能（function）を組み込んだ作りになっている（Appendix A参照）。形式・意味・使用のつながりを把握した上で，文法項目を運用できるかどうかを測定することをめざしている。制限時間は20秒なので，指示文を読んだ後，ほぼ間をおかずに発話しなければならないという時間的プレッシャーも与えられている。これは指示文によって示された機能を口頭で即応的に果たす運用力があるかどうかを測るための工夫である。本研究ではパソコンが48台設置された語学教室でテストを実施したので，発話を一斉に録音し，音声データを集めることができた。受験者の発話は全て録音し，本研究者と調査協力者が転写することによって分析データを収集した。図1は問題提示スライドの例を示す。

試験時間は筆記テスト，口頭テストも受験方法の説明を含めて30分で終了する。PCの録音ソフトの操作に受験生が慣れていない場合には，そのために10分程度の事前準備が必要となる。

採点に関しては，基本的な採点基準を決め，各項目正解の場合には1点，不正解の場合には0点とした。綴りの些細な間違いなどは減点していない。

KR-21によって筆記文法力診断テストおよび口頭文法力診断テストの

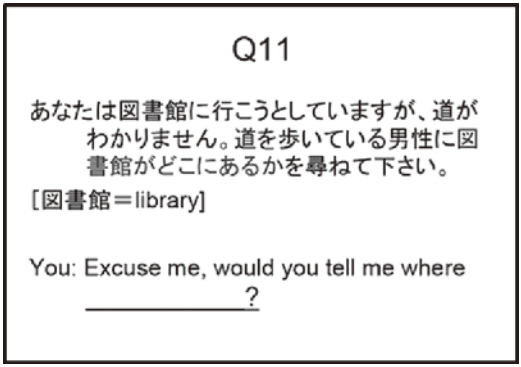

図 1　文法診断テストの問題提示スライド

信頼性を検証したところ，前者は .80，後者は .74 という値となった。どちらのテストも一定の信頼性があるとみなすことができる。筆記文法力診断テストの採点に関して, 2 名の採点者によって 60 人分のデータを採点し，採点者間信頼度係数を出したところ .98 という値が得られた。

3.2　実験参加者

本研究に参加し，文法力診断テストを受けたのは私立大学英文学科で学ぶ大学 2 年生である。口頭文法力診断テストは 44 名，筆記文法力診断テストは口頭文法力診断テストを受けた学生群とは別の 215 名が受験している。英語熟達度レベルは初級から中級で, TOEIC-IP（リスニング, リーディング）の平均点は 408 点で最高点は 595 点，最低点は 195 点であった（n = 43, SD = 94.21）。これはヨーロッパ共通言語参照枠（CEFR）に換算すると A2（Basic User）から B1（Independent User）に相当する。[3]

4. 結　　果

4.1　文法力診断テスト結果の記述統計

表 2 は筆記文法力診断テストと口頭文法力診断テストによって測定した日本人大学生の文法力の記述統計である。

表 3 および表 4 は筆記文法力診断テストと口頭文法力診断テストそれぞれの正答率を示す。これらの表からわかる通り，各項目の正答率平均は筆記文法力診断テストが 44.1 点，口頭文法力診断テストが 45.1 点でほぼ同じ正答率である。正答率に関して，2 つのテストで得られた得点間に統計上の有意差はみられない（$t(70)=.22, p=.83, ns$）。

正答率が低い項目には文構造が複雑なものと仮定法過去完了や過去完了などの法（mood）や相に関わる項目が筆記テスト，口頭テストどちらでも共通して並ぶことがわかる。現在進行相や単純過去に関して，同じ文法項目でも動詞の語彙的アスペクトが異なると正答率が大きく変わることにも注意しなければならないことが表 3 および表 4 からわかる。例えば，現在進行相について，動作動詞（study）では正答率は筆記テスト 85.1，口頭テスト 77.3 と極めて高いが，動詞が達成動詞（fall）になると，筆記テ

表 2　筆記文法力診断テストと口頭文法力診断テスト結果の記述統計

	筆記文法力診断テスト	口頭文法力診断テスト
受験者数	215	44
平均	15.9	16.3
標準偏差	6.4	5.6
最高点	32	30
最低点	1	6

表３　筆記文法力診断テスト正答率順位表

順位	項目番号	文法項目	正答例	正解数/215	正答率
1	5	現在進行相	He is studying in the library.	183	85.1
2	1-1a	単純過去（規則・動作）	I enjoyed skiing.	180	83.7
3	3-3	比較級　er than	Is your school bigger than ours ?	168	78.1
4	16	比較級　more than	Writing English is more difficult than speaking in English.	145	67.4
5	6	単純現在（規則・動作）	I study before dinner every evening.	144	67.0
6	18	It is — to V	It is difficult for me to write a letter in English.	140	65.1
7	4-2	最上級　the most	This is one of the most famous temples in Japan.	137	63.7
8	1-1b	動名詞	I enjoyed skiing.	136	63.2
9	3-2	関係代名詞・目的格	This is a picture that we all love.	133	61.9
10	1-2	単純過去（規則・動作・埋め込み文）	The lodge where we stayed was gorgeous.	123	57.2
11	2-1	疑問詞＋名詞	What food do you like ?	121	56.3
12	4-1	受身形	This temple was built 200 years ago.	118	54.9
13	21	単純現在（規則・状態）	I belong to the music club.	112	52.1
14	2-3	未来表現	When will you go back to your… ?	110	51.2
15	3-4	関係代名詞・主格	Ms. Sato is an English teacher who speaks English well.	104	48.4
16	10	現在分詞・後置修飾	The girl playing the flute.	104	48.4
17	20	過去進行相	I was taking a bath.	103	47.9
18	4-3	最上級　the -est	This is not the oldest temple in Japan.	96	44.7
19	8	Wh 疑問（倒置・項）	What are you reading ?	95	44.2

表3　つづき

順位	項目番号	文法項目	正答例	正解数/215	正答率
20	25	単純過去（規則・達成）	You dropped something.	86	40.0
21	24	Wh 疑問（倒置・付加）	Why are you laughing ?	83	38.6
22	22	現在進行相（達成動詞）	The temperature is falling down.	81	37.7
23	26	間接疑問（where+ 一般 V）	Do you know where Mr. Tanaka lives ?	80	37.2
24	12	仮定法過去	I wish I could speak English fluently.	78	36.3
25	1-3	単純過去（不規則）	The owner spoke Japanese fluently.	74	34.4
26	23	Wh 疑問（主格・物）	What happened to him ?	66	30.7
27	9	付加疑問	…, didn't he?	65	30.2
28	19	Wh 疑問（主格・人）	Who broke the window?	57	26.5
29	11	間接疑問（where+beV）	Could you tell me where the library is ?	52	24.2
30	3-1	関係副詞	This is a room where students use computers.	48	22.3
31	7	過去完了相	… the goldfish had already died.	46	21.4
32	15	間接疑問（補文標識 if）	Do you know if Cathy will come tomorrow ?	45	20.9
33	2-2	現在完了相	Have you eaten sukiyaki ?	41	19.1
34	13	仮定法過去完了	I wish I had gone to bed earlier last night.	27	12.6
35	14	仮定法過去完了（should have pp）	You should not have eaten so much ice cream.	21	9.8
36	17	間接疑問（I wonder if・配慮表現）	I was wondering if you could help me…	10	4.7
平均				94.8	44.1

表 4　口頭文法力診断テスト正答率順位表

順位	項目番号	文法項目	正答例	正解数 / 44	正答率
1	5	現在進行相（規則・動作）	He is studying in the library.	34	77.3
2	3-3	比較級　er than	Is your school bigger than ours ?	34	77.3
3	6	単純現在（規則・動作）	I study before dinner every evening.	32	72.7
4	21	単純現在（規則・状態）	I belong to the music club.	32	72.7
5	4-2	最上級　the most	This is one of the most famous temples in Japan.	29	65.9
6	24	Wh 疑問（倒置・項）	Why are you laughing ?	28	63.6
7	1-1b	動名詞	I enjoyed skiing.	28	63.6
8	8	Wh 疑問（倒置・付加）	What are you reading ?	27	61.4
9	4-1	受身形	This temple was built 200 years ago.	27	61.4
10	2-1	疑問詞 + 名詞	What food do you like ?	26	59.1
11	12	仮定法過去	I wish I could speak English fluently.	25	56.8
12	1-1a	単純過去（規則・動作）	I enjoyed skiing.	25	54.5
13	18	It is — to V	It is difficult for me to write a letter in English.	24	54.5
14	20	過去進行相	I was taking a bath.	24	54.5
15	16	比較級　more than	Writing English is more difficult than speaking in English.	24	54.5
16	2-3	未来表現	When will you go back to your… ?	24	54.5
17	1-2	単純過去（規則・動作）	The lodge where we stayed was gorgeous.	22	50.0
18	3-2	関係代名詞・目的格	This is a picture that we all love.	21	47.7
19	22	現在進行相（達成）	The temperature is falling down.	21	47.7

表 4　つづき

順位	項目番号	文法項目	正答例	正解数 / 44	正答率
20	10	現在分詞・後置修飾	The girl playing the flute.	21	47.7
21	25	単純過去（規則・達成）	You dropped something.	21	47.7
22	19	Wh 疑問（主格・人）	Who broke the window ?	19	43.2
23	9	付加疑問	…, didn't he ?	19	43.2
24	26	間接疑問（where 一般 V）	Do you know where Mr. Tanaka lives ?	17	38.6
25	23	Wh 疑問（主格・物）	What happened to him ?	16	36.4
26	3-4	関係代名詞・主格	Ms. Sato is an English teacher who speaks English well.	15	34.1
27	4-3	最上級　the -est	This is not the oldest temple in Japan.	14	31.8
28	3-1	関係副詞	This is a room where students use computers.	13	29.5
29	1-3	単純過去（不規則・動作）	The owner spoke Japanese fluently.	13	29.5
30	11	間接疑問（where be-V）	Could you tell me where the library is ?	12	27.3
31	7	過去完了相	… the goldfish had already died.	10	22.7
32	15	間接疑問（補文標識 if）	Do you know if Cathy will come tomorrow ?	5	11.4
33	14	仮定法過去完了	You should not have eaten so much ice cream.	4	9.1
34	17	間接疑問（I wonder if 配慮表現）	I was wondering if you could help me…	4	9.1
35	13	仮定法過去完了	I wish I had gone to bed earlier last night.	3	6.8
36	2-2	現在完了相	Have you eaten sukiyaki ?	3	6.8
平均				19.8	45.1

スト 37.7，口頭テスト 47.7 と大きく正答率が下がる。単純現在でも同様の違いがみられる。これらの違いは，後述のように動詞の語彙的アスペクトが文法的アスペクトの習得順序に大きく影響を及ぼすと予測したアスペクト仮説（Li & Shirai, 2000）を部分的に裏付けるものと言える。

4.2　文法項目の習得困難度順位と CEFR 準拠の文法配列順序

筆記および口頭文法力診断テストの結果から，日本人英語学習者にとって習得しにくいものから習得しやすいものまで，文法項目によって習得上の困難度が大きく異なることが明らかになった。この文法習得困難度の段階が，EQUALS が CEFR に準拠して示した CEFR レベルごとの文法配列順序とどの程度一致するのかを順位相関係数を算出することによって調査した。表 5 は筆記および口頭文法力診断テストによって得られた習得困難度順位（正答率順位）と EQUALS が公開した CEFR 準拠の配列順序との間の相関係数（スピアマン順位相関係数）を示す。

順位相関関係の分析結果からは，筆記および口頭文法力診断テストによって得られた文法習得困難度の順位と EQUALS が出した文法配列順序

表 5　文法力診断テストによる習得困難順序と EQUALS の文法配列順序の相関関係

	筆記文法力 診断テスト	口頭文法力 診断テスト	EQUALS 文法配列
筆記文法力診断テスト （n=36）	1		
口頭文法力診断テスト （n=36）	.83**	1	
EQUALS 文法配列 （n=35）	.56**	.57**	1

**p<.01

の間には，統計的に有意な中程度の相関関係があることがわかる（筆記テスト r_s=.56, p<.01；口頭テスト r_s=.57, p<.01）。このことは英語教科書の文法項目配列や英語教師に対する調査などの実践的な方法によって設定されたEQUALSの文法配列と本研究で試行されている筆記および口頭文法力診断テストが明らかにした文法習得困難度の順位が一定程度一致していることを示している。

4.3　文法力診断テストと英語熟達度テスト得点

口頭文法力診断テストによって測定された文法力の得点と英語熟達度テストによって測定された英語力の間に相関関係があるかどうかを，それぞれのテスト得点同士の相関係数（ピアソン相関係数）を出すことによって検証した。

この結果から，口頭文法力診断テストと英語熟達度テストであるTOEIC-IP得点の間には，統計的に有意な中程度の相関関係があることがわかった（r=.61, p<.01）。決定係数（r^2）は.37であるため，英語熟達度得点の37%が文法力得点の変動で説明できることとなり，文法力と英語熟達度の関係が一定程度強いことを示している。TOEICのリーディング・

表6　口頭文法力診断テスト得点とTOEIC得点の相関関係

（n=43）	口頭文法力診断テスト	TOEIC合計	TOEICリスニング	TOEICリーディング
口頭文法力診断テスト	1			
TOEIC合計	.61**	1		
TOEICリスニング	.48**	.92**	1	
TOEICリーディング	.63**	.85**	.58**	1

**p<.01

セクションだけで見ると同様に有意な相関がみられる（r=.63, p<.01）。リーディング・セクションの文法能力を見るテスト項目（R5）だけを取り出して相関係数を出すと TOEIC 全体との相関よりは低いが，統計的に有意な相関係数が得られた（r=.47, p<.01）。

4.4　口頭文法力診断テストと筆記文法力診断テストに見られる習得困難度の違い

口頭文法力診断テストと筆記文法力診断テストは，テスト項目自体は全く同じものではあるが，測定方法は大きく異なっている。前者はプロジェクタで示される指示に従って目標となる文法項目を含んだ文を音声で話し，それを PC で一斉に録音するという測定方法であり，後者は鉛筆と紙による通常の筆記テストである。測定モードが異なる文法力テスト間の各文法項目の正答率に関して有意差がないことは，上述の有意差検定の結果が示す通りであるが，習得困難度の順序について 2 つのテスト間にどのような関係があるのかを検証した。同じ 36 の文法項目について口頭文法力診断テストと筆記文法力診断テストそれぞれによって得られた困難度順位の間の相関係数（スピアマン順位相関係数）を出したところ，統計的に有意な強い相関が得られた（r=.83, p<.05）。

これらの分析結果から口頭文法力診断テストと筆記文法力診断テストは日本人英語学習者の文法習得困難度をほぼ同じように測定したと考えることができる。

4.5　第二言語習得理論による文法習得困難度の予測

文法習得に関する第二言語習得理論が予測する文法発達順序と文法力診断テストによって明らかにされた文法習得困難度がどの程度一致するの

か，検証を行った。

まず，Pienemann（1998, 2005）が提唱する処理可能性理論に基づく文法発達段階について検討する。処理可能性理論では，発達段階の最高位である第 6 段階に間接疑問文を置く。主節と従属節両方の言語処理が可能となり，間接疑問文における倒置のキャンセルが可能になる段階が 6 段階である。その下の第 5 段階では，Wh 疑問文において，助動詞 do を適切な位置に置き（Do/ Aux 2nd），主語と動詞の一致を行うことができるようになる。この 2 つの異なる発達段階にある疑問文構造の習得困難度は表 7 のような状況であった。

6 段階にあると予測される間接疑問を中心とした文法項目の正解率平均は 25.9 で，5 段階にあると予測される文法項目の正解率平均は 62.5 であった。χ二乗検定の結果，正解率の偏りは有意であった（$\chi^2(1)=17.8$, $p<.01$）。つまり，処理可能性理論が予測する文法発達段階における 6 段階と 5 段階の違いは，口頭文法力診断テストの結果において確認されたこ

表 7　処理可能性理論に基づく疑問文構造発達段階

処理可能性理論における発達段階	疑問文構造	口頭文法力診断テスト			
		No.	文法項目	正解率	正解率平均
6 段階	間接疑問（cancel inversion）	17	間接疑問（I wonder if　配慮表現）	9.1	25.9
		15	間接疑問（補文標識 if）	11.4	
		11	間接疑問（where be 動詞）	27.3	
		26	間接疑問（where　一般動詞）	38.6	
		9	付加疑問	43.2	
5 段階	Wh 疑問（Do/Aux 2nd）	8	Wh 疑問（倒置・付加）	61.4	62.5
		24	Wh 疑問（倒置・項）	63.6	

表 8　過去に関わる時制と相の発達順序

順序	文法項目	口頭文法力診断テスト項目		正答率
1	単純過去	1-1a	単純過去（規則・動作）	54.5
		1-2	単純過去（規則・動作・埋め込み文）	50.0
		25	単純過去（規則・達成）	47.7
2	過去進行	20	過去進行	54.5
3	現在完了	2-2	現在完了（経験）	6.8
4	過去完了	7	過去完了	22.7

とになる。

次に，過去に関わる時制と相の習得順序について検討したい。Bardovi-Harlig（2000）は次の順序を予測している：単純過去→過去進行→現在完了→過去完了（Bardovi-Harlig, 2000, p. 419）。表 8 は口頭文法力診断テストにおける正答率である。

Bardovi-Harlig（2000）の予測と異なる点は，現在完了の正答率が 6.8% と極端に低かったことである。誤答の中でもっとも多かったのは，単純過去による代用であった。このように現在完了について正答率が極めて低かったのは，このテストにおいて現在完了の使用を必須とする十分なコンテクストが示されていなかったことによるものと思われる。相に関する言語形式を誘出するコンテクストを作ることの難しさが示された。現在完了以外は概ね Bardovi-Harlig（2000）の予測に合致していると言えるが，単純過去においては動詞の意味，文の中での位置によって正答率が変化しており，テスト作成においてはこの点に注意しなければならないことがわかる。

動詞の意味の違いと文法発達の関係は，アスペクト仮説において論じら

表 9　動詞の意味と現在進行相

順序	動詞の意味	口頭文法力診断テスト項目		正答率
1	動作動詞	5	現在進行（規則変化・動作動詞）	77.3
2	完成動詞	—	なし	—
3	達成動詞	22	現在進行（規則変化・達成動詞）	47.7

れている（Li & Shirai, 2000）。この仮説に基づくと，進行相について，最初に習得されるのが動作動詞と共起した場合で，次に完成動詞，次いで達成動詞となる。[4] 表 9 は口頭文法力診断テストにおける現在進行相の正答率を示す。

完成動詞を用いた現在進行はテストに含まれていないが，動作動詞と達成動詞に関してはアスペクト仮説が予測する順序と一致し，動作動詞の方が達成動詞よりも現在進行相の正確性が高い。χ二乗検定の結果，正解率の偏りは有意であった（$\chi^2(1)=6.92, p<.01$）。

最後に関係代名詞の習得順序について検討したい。関係節の習得段階は名詞句接近度階層（Noun Phrase Accessibility Hierarchy）や文処理の不連続性（processing discontinuity）の観点などさまざまな観点から予測が試みられている（Ellis, 2008）。名詞句接近度階層に基づく研究では，Comrie and Keenan（1979）が言語類型学的調査に基づいて明らかにした接近度（ある言語に存在する可能性）の階層が第二言語習得の発達にも影響を及ぼすと推測されている。つまり，関係節の接近度は関係節の中で関係詞が果たす文法的機能によって変わり，① 主語→② 直接目的語→③ 間接目的語→④ 斜格名詞句（前置詞の目的語）→⑤ 所有格名詞句→⑥ 比較の目的語の順で無標から有標となり，接近度が低くなる。第二言語発達においてもこの順で関係節構造が習得されると予測されている（Doughty, 1991 ;

表 10　関係代名詞の正答率

予測される順序	口頭文法力診断テスト項目		正答率	
			筆記テスト	口頭テスト
1	3-4	関係代名詞・主格（OS）	48.4	47.7
2	3-2	関係代名詞（目的格）（OO）	61.9	43.2

Zobl, 1983 など）。文処理の不連続性の観点からは，関係節が修飾するのは主節の主語なのか目的語なのかの違いに重ねて，関係代名詞が主格なのか目的格なのかの違いによって文処理の連続性が異なるため，その違いが習得順序に影響を及ぼすと考えられている（Hamilton, 1994 ; Izumi, 2003 など）。この仮説に基づくと OS → OO/SS → SO という習得順序が予測できる。

本研究における文法能力診断テストで用いた関係代名詞を含む文は項目 3-4 の関係代名詞（主格）（OS）と項目 3-2 の関係代名詞（目的格）（OO）である。表 10 はそれぞれの正答率を示す。

χ 二乗検定では，筆記テストおよび口頭テスト両方の正答率に有意な偏りは認められない（筆記テスト：$\chi^2(1)=1.65$, *ns* ; 口頭テスト：$\chi^2(1)=.23$, *ns*）。本テスト結果からは名詞句接近度階層および文処理不連続性に基づく習得順序の予測を裏付けるデータは得られなかった。

4.6　日本人英語学習者にとって習得困難な文法項目の特徴

筆記文法力診断テストおよび口頭文法力診断テスト結果において日本英語学習者の正答率が特に低かった（いずれかの正答率が 25% 未満）のは，表 11 に示す項目であった。

間接疑問のような複雑な文構造を持ち，複数の処理を行わなければなら

表 11　正答率が低い文法項目

No.	文法項目	正答例	正答率	
			筆記	口頭
11	間接疑問（where+be 動詞）	Could you tell me where the library is ?	24.2	27.3
3-1	関係副詞	This is a room where students use computers.	22.3	29.5
7	過去完了相	… the goldfish had already died.	21.4	22.7
15	間接疑問（補文標識 if）	Do you know if Cathy will come tomorrow ?	20.9	11.4
2-2	現在完了相	Have you eaten sukiyaki ?	19.1	6.8
13	仮定法過去完了	I wish I had gone to bed earlier last night.	12.6	6.8
14	仮定法過去完了 （should have pp）	You should not have eaten so much ice cream.	9.8	9.1
17	間接疑問 （I wonder if・配慮表現）	I was wondering if you could help me…	4.7	9.1

ない文法項目と完了相および仮定法に関わる文法項目の正答率が低く，これらの文法項目に日本人英語学習者の多くが運用において困難を抱えていることがわかる。

5.　考　　察

本研究で得られた分析結果を元に，それぞれの研究課題について考察していきたい。

第 1 の研究課題として，文法力診断テストによって明らかになる文法項目の習得困難度の順序は，CEFR 準拠の文法配列順序と一致するかどうかを検証した。テスト結果からは，一定の相関関係があることが明らかになった。EQUALS の文法配列は，言語理論に基づいたものではなく，広く使

われている英語教科書における文法配列や英語教師に対する調査データなどを用いて極めて実践的な方法で設定されたものである。この配列と本研究で試行された筆記および口頭文法力診断テストが明らかにする習得困難度が一定の一致を見たことは，本テストの妥当性を裏付ける結果としてとらえることができる。

CEFR による第二言語（外国語を含む）の能力記述は近年急速に普及しており，日本においても NHK 教育テレビ・ラジオの語学番組用市販テキストで利用されているように，第二言語の到達度を示すものとして浸透して来ている。文部科学省がすべての中学・高等学校に CAN-DO リストの形で英語の能力記述を作成し，到達目標を策定するように求めている施策の背景には CEFR の影響があると考えられる。このように広く外国語教師によって共有され始めている到達度指標と関連付けることのできる文法診断テストが作成できれば，学習者に対する目標設定や教科書編集，シラバス作成などに大いに活用することが可能になる。本研究ではそのような文法配列を策定し，それを測定する文法テストを構築するための基礎的なデータが得られたと考えている。

CEFR および EQUALS はヨーロッパで生まれたものなので，外国語としての英語を教える日本の英語教育とは異なる面にも注意して今後検討を深めていかなければならない。例えば，受け身形や関係代名詞など日本では中学 3 年生，つまり A2 レベル（基礎的英語使用者レベル）で指導する文法項目が, EQUALS では B1 レベル（自立した言語使用者レベル）となっている。日本においてこれらの複雑な文法項目を教えるタイミングが早すぎるという議論も可能であろうが，このような相違点について今後検証を重ねていく必要がある。

第 2 の研究課題では，文法力診断テストによって測定された文法力の得

点と英語熟達度テストによって測定された英語力の間に相関関係があるかどうか検証を行った。テスト結果の分析からは, 中程度の関係が認められ, 英語熟達度と本研究で開発されたテストで測定された文法力の間には関係があることがわかった。文法はコミュニケーションを支えるものであるという考えや文法能力をコミュニケーション能力の柱の一つとみなす言語習得理論を支持する結果が得られたと言えよう。ただし，今回利用した英語熟達度テストはリスニングとリーディングのみの TOEIC であり，4 技能を総合的に測るものではなかったことに留意したい。スピーキングおよびライティングとの関係を含めて，今後調査を進めていく必要がある。本研究で試行された文法力診断テストは筆記版も口頭版もどちらも理解・認識テストではなく，表現・産出テストであったため，スピーキングおよびライティングとの関係は理解活動よりも強い可能性もある。今後の検討課題である。

研究課題 3 は，口頭文法力診断テストによって測定された習得困難度と筆記文法力診断テストによって測定された習得困難度の間に違いはあるかというものであった。テスト結果からは筆記テストと口頭テストは大きな違いを生じずに文法習得における日本人英語学習者の困難度を測定することができることがわかった。文法項目をコミュニケーションにおいて運用できるかどうかを測るテストとしては，筆記で答えるものよりも，実際に指示に従って文を発話し，言語機能を果たすことを求められる口頭文法力テストの方が表面的妥当性（face validity）を持つものと考えられる。英語学習への波及効果（backwash effect）を考えると，口頭文法診断テストを実施することによって, 文法学習においては文法知識を持つだけではなく, 瞬時に口頭で運用できるところまで学習を深めなければならないというメッセージを教師が生徒に与えることもできる。しかしながら，録音機器

の手配や採点の手間を考えると筆記テストの方が圧倒的に実用性（practicality）は高い。筆記文法力診断テストでも口頭での測定と質的に大きく変わらない結果が得られたということは，筆記診断テストでも文法運用能力を測ることができると考えられる。学習効果，評価の目的や実行可能性などさまざま要因を考慮しながら筆記テストと文法テストを選択して学習者の文法習得度を測定・評価していくための道具の一つとして本診断テストが活用されることを期待する。

研究課題 4 では，文法力診断テストによって明らかになる習得困難度は文法発達順序に関する第二言語習得理論（処理可能性理論およびアスペクト仮説）によって予測することができるかどうかを確認した。本テスト結果が示す文法習得困難度をもっとも明確に予測するのは, Pienemann（1988, 2005）が提唱する処理可能性仮説である。間接疑問など処理が複雑になる文構造は特に口頭での言語運用では習得が遅くなるという現象は本研究においてもはっきりと表れた。この発達段階は含意的関係を持った（implicational relation）6 段階からなる階層によって構成されている。本研究で試行したテストが測ったのはその 2 つのレベルだけであり，含意関係は検証していないので，今後，さらに多くのレベルを含んだテストを作り，含意関係を検証していく必要がある。

Bardovi-Harlig（2000）のアスペクト習得段階に関する仮説および Li and Shirai（2000）らの動詞のアスペクト的意味に注目して相の発達順序を予測するアスペクト仮説も本研究で得られたデータと一致点がみられた。特に動作動詞，達成動詞，完成動詞など，動詞の意味の違いが時制や相の運用に大きな影響を及ぼすことは文法力診断テスト開発にとって大きな意味を持つ。一つの種類の動詞で時制や相を運用できたからといって，他の意味を持つ動詞で運用できるかどうかわからないことを指導者は認識して

いなければならない。時制や相の習得を包括的に見るためには，異なる意味を持つ動詞を用いて時制や相の運用力を測る必要があるが，項目数が増えるのでテストの実行可能性を下げてしまう。どう調整するか，今後の課題である。

関係代名詞の習得順序に関しては，名詞句接近度階層仮説および処理不連続性仮説のどちらとも本テストの結果は一致しなかった。関係するテスト項目がそれぞれ1項目であったため，研究方法上，仮説検証のデータとして妥当性を持つものではないが，文法力診断テストと第二言語習得研究の相互作用的な試みとして，今後，検証を進めていきたい。

第5の研究課題においては，日本人英語学習者にとって習得困難な文法項目にはどのような特徴があるのかを確認した。本テスト結果から，日本人英語学習者にとって，間接疑問のような複雑な言語処理を必要とする文法項目および構造的な複雑さに加えて意味的な難しさを伴う完了相および仮定法に関わる文法項目が習得困難なものであることが明らかになった。今回テスト項目に含まれた文法項目は全て中学校・高校で既習のものであり，テスト受験者は英文学科で学ぶ大学生という一般日本人よりも目標言語である英語により多く，より深く触れているはずの日本人英語学習者であった。それにもかかわらず，上記の文法項目を適切に運用できる学生の数は極めて少なかった。このことは日本の英語教育における文法指導の弱さを浮き彫りにしていると考えることができる。習得困難として挙がってきた文法項目については，その構造的な複雑さもあって，実際の言語使用で運用するための産出レベルまで指導されていないと本テスト結果から推測せざるを得ない。構造理解で留まって，運用レベルまでの習得が学習者の側でも指導者の側でもそもそもめざされていないケースが多かったのではないだろうか。これらの複雑な文法項目は産出レベルまで定着させる必

要はなく，これらの文法項目を含んだ文の意味が理解できればいいと到達目標を理解レベルに限定することも状況によってはありうるのかもしれない。しかしながら本テストに盛り込んだ文法項目は通常の生活で人がふつうに果たすべき社会的機能を表すもの，コミュニケーション上の価値が高いものに限定しており，少なくとも日本人大学生にとっては産出レベルまでの定着が望まれるものである。

本テストで習得困難とされた文法項目の文法項目の運用力を高めるためには，上記のように到達目標の見直しが前提となる。産出レベルでの運用力を育てるという指導目標が定まれば，次に考えるべきは文法指導のあり方である。言語構造についての知識を解説し，文単位の練習問題を筆記で解くだけでは，産出レベルでの運用能力を育てることはできない。言語使用のコンテクストの中で目標文法項目を提示し，その形式と意味と機能のつながりを把握させる指導。次に言語構造・意味に関する発見を伴う明示的な文法指導および言語知識の自動化を進める構造的な練習。そして当該文法項目が必須となる言語活動。これらの提示－理解－練習－使用を基本的な流れとした総合的な指導を行うことが文法運用能力を育てる上で効果的であると筆者は考えている（Harmer, 2007；田中・田中 2014；村野井 2006）。このような文法指導を単に言語形式の習得をねらいとした授業の中で行うのではなく，意味のある題材内容について学び，考える活動の中に組み込むことも重要である。このような指導は focus on form と呼ばれ，文法習得を促す上で効果的であることが多くの実証的研究によって報告されている（Doughty, 2003；Doughty & Williams, 1998；Long, 1991；Norris & Ortega, 2000 など参照）。

本研究の問題点としては大きなものが 2 つ挙げられる。まず，提案した文法力診断テストはテストの実行可能性を重視して 30 分程度で終了でき

るものとして作成したため テストの妥当性が低くなってしまっている。36 の文法項目が日本人英語学習者に必要な全てのものでは当然なく，本テストに含んでいない基本的な文法事項が多くある（冠詞，複数形，代名詞，所有格，to 不定詞，過去分詞の後置修飾など）。同様にテスト項目の数の制約があったため，一つの文法項目の習得度を測定するのにたった一つのテスト項目しか用いていないのは信頼性の確保の点から問題がある。例えば，現在完了のテスト項目に問題があったため本テスト結果ではこの項目の正答率は極端に低くなっており，その結果，現在完了の習得度合いは測定不能となってしまっている。この問題に対応するには，測定する文法項目の種類とテスト項目を増やしたより包括的な文法テストを別バージョンとして作成し，利用者が目的，実施条件などに合わせて選択できるようにする必要があろう。

2 つ目の問題点は，文法診断テストの受験者が英文学科で学ぶ大学生に限定されている点である。英語を専攻としない日本人英語学習者とは英語学習動機や学習時間・方法など多くの点で異なっていると思われるので，分析結果を解釈する際に注意を払う必要がある。

この他，本テストにおいて文法項目に関する理解度を測定していないこと，テストの妥当性検証が十分に行われていないこと，一次元性を測定していないことなど, テスト開発の観点から見れば不十分な点は数多くある。今後の課題としたい。

6. 結　　び

本研究では，日本人英語学習者の英語運用能力を実用性の高い方法で測定するために作成された文法力診断テストについて，テスト自体の有用性の検討を行い，さらに，テストによって得られたデータを用いて日本人英

語学習者にとってどのような文法項目が習得困難なのか調査した。筆記および口頭文法力診断テストによって測定された文法力は英語熟達度テストが測定する英語力と関係を持っていること，同テストによって明らかにされた日本人英語学習者にとっての文法習得困難度は，CEFR 準拠の文法配列と一定の一致が見られること，および，明らかになった文法習得困難度は第二言語習得研究の中で提案されている習得順序に関する仮説のいくつかを支持することが明らかになった。効果的な文法指導を実践するために必須となる文法力診断テスト開発のための予備的研究として今後の文法診断テスト開発に活かすことのできるデータを得ることができた。

注

1 本研究は日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 B（課題番号：20320083 研究代表者村野井仁）の研究成果の一部である。文法テストおよび英語熟達度テストを受験してくれた実験参加者，研究の補助をしてくれた学生・大学院生に感謝したい。

2 Goldschneider and DeKeyser（2001）は，形態素の知覚上の目立ちやすさ，意味の複雑さ，形態音韻上の規則性，統語範疇，頻度の 5 つの観点から，形態素獲得順序の説明を試みている。

3 ETS（Educational Testing Services）がウエブサイト上で公表している Mapping the TOEIC and TOEIC Bridge Tests on the Common European Framework of Reference for Languages による。

4 Li and Shirai（2000）は，以下の動詞の例を挙げている：動作動詞（Activity）：run, walk, swim；完成動詞（accomplishment）：paint a picture, build a house；達成動詞（achievement）：fall, drop, win the race

参　考　文　献

Anderson, R. & Shirai, Y.（1996）. Primacy of aspect in first and second language acquisition. In W. Richie & T. Bhatia（Eds.）, *Handbook of second language acquisition*（pp. 527-570）. San Diego, CA：Academic Press.

Backman, L.（1990）. *Fundamental considerations in language testing*. Oxford, UK：Oxford University Press.

Backman, L. & Palmer, A.（1996）. *Language testing in practice*. Oxford, UK：Oxford

University Press.

Bardovi-Harlig, K. (2000). *Tense and aspect in second language acquisition : Form, meaning, and use*. Oxford, UK : Blackwell.

Brown, R. (1973). *A first language : The early stages*. Cambridge, MA : Harvard University Press.

Canale, M. (1983). From communicative competence to communicative language pedagogy. In J. Richards & R. Schmidt (Eds.), *Language and communication* (pp. 2-27). London, UK : Longman.

Canale, M. & Swain, M. (1980). Theoretical bases of communicative approaches to second language teaching and testing. *Applied Linguistics*, *1*, 1-47.

Comrie, B. & Keenan, E. (1979). Noun phrase accessibility revisited. *Language*, *55*, 649-664.

Dulay, H. & Burt, M. (1973). Should we teach children syntax ? *Language Learning, 23*, 245-258.

Dulay, H., Burt, M. & Krashen, S. (1982). *Language two*. Oxford, UK : Oxford University Press.

Doughty, C. (1991). Second language instruction does make a difference : Evidence from an empirical study on SL relativization. *Studies in Second Language Acquisition, 13*, 431-469.

Doughty, C. J. (2003). Instructed SLA : constraints, compensation, and enhancement. In C. J. Doughty & M. Long (Eds.), *The handbook of second language acquisition* (pp. 256-310). Oxford, UK : Blackwell.

Doughty, C. & Williams, J. (Eds.) (1998). *Focus on form in classroom SLA*. Cambridge, UK : Cambridge University Press.

Ellis, R. (2008). *The study of second language acquisition* (*2nd ed.*). Oxford, UK : Oxford University Press.

Ellis, R. (2009). Investigating learning difficulty in terms of implicit and explicit knowledge. In R. Ellis, S. Lowen, C. Elder, R. Erlam, J. Philp & H. Reinders (Eds.), *Implicit and explicit knowledge in second language learning, testing and teaching* (pp. 143-166). Bristol, UK : Multilingual Matters.

EAQUALS (European Association for Quality Language Services) (2010). *Core inventory for general English*. British Council.

Goldschneider, J. & DeKeyser, R. (2001). Explaining the "natural order of L2 morpheme acquisition# in English : A meta-analysis of multiple determinants. *Language Learning*, *51*, 1-50.

Hamiliton, R. (1994). Is implicational generalization unidirectional and maximal ? Evidence from relativization instruction in a second language ? *Language Learning, 44*, 123-157.

Harmer, J. (2007). *Practice of English language teaching* (*4th ed.*). London, UK : Longman.

Hawkins, J. & Flipović, L. (2012). *Critical features in L2 English : Specifying the reference levels of the common European Framework*. Cambridge, UK : Cambridge University Press.

Izumi, S. (2003). Processing difficulty in comprehension and production of relative clauses by learners of English as a second language. *Language Learning, 53*, 283-323.

Johnson, K. (1996). *Language teaching and skill learning.* Oxford, UK : Blackwell.

Larsen-Freeman, D. (1991). Teaching grammar. In M. Celce-Murcia (Ed.), *Teaching English as a second or foreign language* (pp. 279-296). Boston, MA : Heinle & Heinle.

Larsen-Freeman, D. (2003). *Teaching grammar : From grammar to grammaring.* Boston, MA : Thomson-Heinle.

Larsen-Freeman, D. & Long, M. (1991). *An introduction to second language acquisition research.* London, UK : Longman.

Leech, G. (1983). *Principles of pragmatics.* London, UK : Longman.

Li, P. & Shirai, Y. (2000). *The acquisition of lexical and grammatical aspect.* Berlin & New York : Mouton de Gruyter.

Long, M. (1991). Focus on form : A design feature in language teaching methodology. In K. de Bot, R. Ginsberg, & C. Kramsch (Eds.), *Foreign language research in cross-cultural perspective* (pp. 39-52). Amsterdam : John Benjamins.

Muranoi, H. (2007). Output practice in the L2 classroom. In R. DeKeyser (Ed.), *Practice in a second language : Perspectives from applied linguistics and cognitive psychology* (pp. 51-84). Cambridge, UK : Cambridge University Press.

Norris, J. & Ortega, L. (2000). Effectiveness of L2 instruction : A research synthesis and quantitative meta-analysis. *Language Learning, 50*, 3, 417-528.

Pienemann, M. (1998). *Language processing and second language development : Processability theory*. Amsterdam : John Benjamins.

Pienemann, M. (2005). An introduction to processability theory. In M. Pienemann, (Ed.), *Cross-linguistic aspects of processability theory* (pp. 1-60). Amsterdam : John Benjamins.

Purpura, J. (2004). *Assessing grammar.* Cambridge, UK : Cambridge University Press.

Quirk, R., Greenbaum, S., Leech, G. & Svartvik, J. (1985). *A comprehensive grammar of the English language*. London, UK : Longman.

Spada, N. & Tomita, Y. (2010). Interaction between type of instruction and type of language feature : A meta-analysis. *Language Learning, 60*, 2, 263-308.

Zobl, H. (1983). Markedness and the projection problem. *Language Learning, 33*, 293-313.

大塚高信・中島文雄（編）(1982) 『新英語学辞典』研究社

金谷憲・英語診断テスト開発グループ（2006）『英語診断テスト開発への道』英語運用能力開発協会

白畑知彦・若林茂則・村野井仁（2010）『詳説第二言語習得研究』研究社

田中武夫・田中知聡（2014）『英語教師のための文法指導デザイン』大修館書店
村野井仁（2006）『第二言語習得理論から見た効果的な英語学習法・指導法』大修館書店

Appendix A：筆記・口頭文法力診断テスト（問題文）

＊問題文提示は PowerPoint のスライドで項目ごとに行う（図 1 参照）。
＊各問題項目の問題提示時間は 20 秒（Q10 は 25 秒）。
＊それぞれの言語機能はテストでは提示しない。

例　先生から好きなスポーツは何か聞かれました。サッカーが好きだと答えて下さい。

You：I like soccer.

Q1　友人と旅行の話をしています。

1-1　去年バンクーバーでスキーを楽しんだことを伝えて下さい。［楽しむ = enjoy；スキーをする =ski］

You：I enjoyed skiing in Vancouver last year.　報告する

1-2　自分たちが泊まったロッジがとてもすばらしかったことを伝えて下さい。［ロッジ = lodge；泊まる = stay］

You：The lodge where we stayed was gorgeous.　報告する

1-3　そのロッジのオーナーは日本語をとても流暢に話したことを伝えて下さい。［話す =speak］

You：The owner of the lodge spoke Japanese very fluently.　報告する

Q2　自宅の隣に留学生が引っ越してきました。いろいろ尋ねてみましょう。

2-1　どんな食べ物が好きか尋ねてみましょう。［注意！：ここでは favorite を使わないで答えて下さい。］

You：What food do you like ?　質問する

2-2　すき焼きは食べたか尋ねてみましょう。［すき焼き＝ sukiyaki］

You : Have you eaten *sukiyaki* ?　質問する

2-3　自分の国へいつ帰るのか尋ねてみましょう。

You : When will you go back to your country ?　質問する

Q3　あなたの学校に海外からお客様が来ました。学校を案内して下さい。

3-1　これは生徒がコンピュータを使う部屋だと伝えて下さい。

You : This is a room where students use computers.　説明する

3-2　これは私たちみんなが愛している絵だと伝えて下さい。［私たちみんな＝ we all］

You : This is a picture that we all love.　紹介する

3-3　相手の学校が自分たちの学校より大きいかどうか尋ねて下さい。［大きい＝ big］

You : Is your school bigger than ours ?　比較する

3-4　佐藤先生は英語がとても上手な英語の先生であることを伝えて下さい。

You : Ms. Sato is an English teacher who speaks English very well.

特定化する

Q4　海外からの知り合いを近所のお寺に案内しています。

4-1　このお寺が約 200 年前に建てられたことを伝えて下さい。［建てる＝ build］

You : This temple was built about 200 years ago.　説明する

4-2　これは日本でもっとも有名なお寺の一つであることを伝えて下さい。［有名な＝ famous］

You : This is one of the most famous temples in Japan.　説明する

4-3　これは日本で最も古いお寺ではないことを伝えて下さい。

You : This is not the oldest temple in Japan. 説明する

Q5 先生からあなたの友人の Ken は今どこにいるか尋ねられました。彼は図書館で勉強していると答えて下さい。[勉強する =study]

You : He is studying in the library. 報告する

Q6 先生から，あなたはいつ勉強しているかと尋ねられました。毎晩，夕食の前に勉強していると答えて下さい。[勉強する = study]

You : I study before dinner every evening. 答える

Q7 家に帰宅したところ飼っていた金魚が死んでいました。あなたの後にお母さんが帰ってきたので，自分が帰宅した時にはその金魚はすでに死んでいたことを伝えて下さい。[死ぬ =die ; すでに = already]

You : When I came home, the goldfish had already died. 報告する

Q8 友人が何か面白そうなものを読んでいます。何を読んでいるのか尋ねて下さい。

You : What are you reading ? 質問する

Q9 田中先生がアメリカに住んでいたことを友人に確認して下さい。

You : Mr. Tanaka lived in the US, didn't he ? 確認する

Q10 文化祭でブラスバンド部が演奏をしています。友人から「のぞみってどの人 ?」と尋ねられました。フルートを吹いている女の子がのぞみであることを伝えて下さい。[フルートを吹く = play the flute]
注意！[ここでは関係代名詞 who を使わずに表現して下さい]

You : The girl playing the flute is Nozomi. 特定する

Q11 あなたは図書館（library）に行こうとしていますが，道がわかりません。道を歩いている男性に道を尋ねて下さい。

You : Excuse me, would you tell me where the library is ? 質問する

Q12 英語がもっと上手に話せればいいなあと言って下さい。[英語を話

す＝ speak English］

You : I wish I could speak English more fluently. 叶わぬ願望を述べる

Q13 朝起きたら猛烈な寝不足です。昨晩もっと早く寝ていればよかったと悔やんで下さい。［寝る＝ go to bed］

You : I wish I had gone to bed much earlier last night. 後悔する

Q14 アイスクリームを食べ過ぎて気持ちが悪いと言っている友人がいます。あんなに食べなければよかったのにと友人に言って下さい。

You : You should not have eaten so much ice cream. 責める

Q15 ALT の Cathy 先生にいろいろ聞きたいことがあります。明日は Cathy 先生が来る日だと思うのですが，はっきりしません。友人に Cathy 先生が明日来るかどうか知っているか尋ねて下さい。

You : Do you know if Cathy will come tomorrow ? 質問する

Q16 あなたは英語で手紙を書くように言われました。英語で手紙を書くのは自分にとってとても難しいことを先生に伝えて下さい。

You : It is very difficult for me to write a letter in English.

判断を伝える

Q17 あなたは英語で手紙を書かなければなりません。Brown 先生に手伝ってもらうようお願いして下さい。先生が忙しいことを知っているので丁寧に頼んでみましょう。

You : Ms. Brown, would you do me a favor ? I have to write a letter in English. I was wondering if you could help me with English.

依頼する

Q18 英語を書くことは英語を話すことよりは難しいと先生に伝えて下さい。［難しい＝ difficult］

You : Writing English is more difficult than speaking English.

比較する

Q19　部屋の窓が壊れています。誰が壊したのか尋ねて下さい。

You : Who broke the window ?　質問する

Q20　昨日の夜，地震がありました。そのとき何をしていたか友人に尋ねられましたので，自分はお風呂に入っていたと伝えて下さい。［お風呂に入る = take a bath］

You : I was taking a bath.　報告する

Q21　友人から部活に入っているか聞かれました。音楽部に入っていると答えて下さい。

You : I belong to the music club.　答える

Q22　気温が下がっていることを友人に伝えて下さい。［下がる = fall down］

You : The temperature is falling down.　描写する

Q23　山田先生が学校を辞めたことを聞きました。先生に何が起きたのか友人に尋ねて下さい。［起きる : happen］

You : What happened to him ?　質問する

Q24　友人が自分の顔を見て笑っています。なぜ笑っているのか尋ねて下さい。［笑う : laugh］

You : Why are you laughing ?　質問する

Q25　目の前を歩いている人が何かを落としました。そのことを伝えて下さい。［落とす =drop］

You : You dropped something.　伝える

Q26　田中先生の家に行きたいのですが，どこに住んでいるのかわかりません。友人に先生がどこに住んでいるのか知っているか尋ねて下さい。［住む =live］

You : Do you know where Mr. Tanaka lives ? 質問する

平成 27（2015）年度文学部
英文学科公開講義

「周縁の文学と文学の周縁」

中心から排除された見えない場所，そしてそこに生きる声を聞きとられることがない存在，そうしたいわゆる「周縁」と名づけられる場所や存在は，文学というものが向き合うトポスのひとつとしてあり続けている。現在，グローバルという場所の重要性が声高に叫ばれ，中心の拡大化，あるいは中心といった考え自体の終わりまでもが言われる中で，周縁の終焉ともいえる事態が進んでいるように思われるかもしれない。

しかし，周縁とは何よりも見えない場所であるならば，それは同時に周縁のさらなる周縁化でもあるはずだ。そのような現在にあって文学と周縁との関係を改めて問い直すこと，それが本講座のテーマである。

第 1 講　講師：福士　航（英文学科准教授）

演題：周縁化に抗う

——Aphra Behn, *Love-Letters between a Nobleman and his Sister* を読む

第 2 講　講師：遠藤健一（英文学科教授）

演題：周縁から中心へ，そして中心なき周縁へ

——Muriel Spark の *The Go-Away Bird* を読む

第 3 講　講師：井出達郎（英文学科准教授）

演題：固有名の剥奪，名づけえぬものの歓待

——ジョゼフ・コンラッド「ある船の話」の “room” における周縁

第 4 講　講師：川田　潤（福島大学教授）

演題：ユートピアという／の周縁と「希望の原理」

周縁化に抗う
—— Aphra Behn, *Love-Letters between a Nobleman and his Sister* を読む

福　士　　航

本講座では，女性作家であるが故に文壇の周縁へと追いやられることに異議申し立てを行っていた Aphra Behn の声を，彼女の晩年の作品である *Love-Letters between a Nobleman and his Sister* のなかに見いだすことを目指した。

1-2 節では，Aphra Behn が生きた政治的動乱の時代背景を紹介するとともに，鍵小説である *Love-Letters* が基づいている実際の事件や人物を紹介した。すなわち，Lord Grey が妻の妹 Henrietta Berkley と駆け落ちした醜聞事件である。彼は従者の Turner という男に Henrietta を偽装結婚させて連れ出しており，このスキャンダルは大いに耳目を惹く事件だった。Lord Grey は Rye House Plot や Monmouth's Rebellion で Duke of Monmouth の右腕として活躍した人物で，体制護持派の Behn にとっては目の敵である。作品中 Philander（Grey）と Silvia（Henrietta）との恋の筋は，反体制派の大物と体制護持派の娘との関係でもあり，Behn が得意とした恋と政治の絡み合う物語であることを紹介し，3 節から実際に作品の分析を行った。

1. Aphra Behn の紹介と *Love-Letters* 成立の背景

1640 Aphra born
1642 the Civil War
1649 Charles I executed
1653 Oliver Cromwell appointed Lord Protector
1660 The Restoration
1663 Aphra went to Suriname
1664 Aphra came back to England
1665-67 The Second Dutch War
1667 Aphra went to Antwerp as a spy
1670 *The Forc'd Marriage*
1673 Test Act
1677 *The Rover, or the Banish'd Cavalier*
1678-81 The Popish Plot
1681 *The Second Part of The Rover*
1682 Exclusion Crisis
1683 Rye House Plot
1684 *Love-Letters* Part I
1685 Charles II died. James II enthroned
1685 Monmouth's Rebellion
1685 *Love-Letters* Part II
1687 *Love-Letters* Part III
1688 *Oroonoko*
1688 June. James II begot a son
1688 Nov. William came to England with troops
1688 Dec. James II exiled to France
1689 16 Apr. Aphra Behn died.

2. *Love-Letters* 成立の背景

Lord Berkley

Lord Grey — 結婚 — Lady Mary 恋→ Monmouth

Turner — 偽装結婚 — Henrietta Berkley

A Key to *Love Letters*

Grey = Philander, Henrietta = Silvia, Turner = Brilljard, Monmouth = Cesario

Mary = Mertilla

Part II, III

Octavio（fictional）

3. *Love-Letters* を読む

3-1

Perhaps you'll be out of humour, and cry, why the Devil did'st thou dedicate the Letters of a Whigg to me, but to make you amends, Sir, pray take notice Silvia is true Tory in every part…（6）

Grey/Philander が反体制派（Whig），Silvia/Henrietta が Tory であることを献辞で明言している箇所。

3-2

LADY LAMBERT.　Is there such God-like Virtue in your Sex ?

Or, rather, in your Party.

Curse on the Lyes and Cheats of Conventicles,

That taught me first to think Heroicks Devils,

Blood-thirsty, leud, tyrannick, salvage Monsters.

But I believe 'em Angels all, if all like Loveless.

What heavenly thing then must the Master be,

Whose Servants are divine ?（*The Roundheads,* 5.1.379-86）

王党派（体制派）の男性貴族の魅力に惹かれる議会派（反体制派）の女性，という構図は，Behn が劇作でしばしば用いた得意の形である。ここも Loveless という王党派貴族の美点を 'God-like' と大げさに誉め，そのトップ 'Master' であるところの国王はどれほど素晴らしい人になるのだろう，というプロパガンダ的なレトリック。

3-3　Silvia to Philander

Is it for addition of titles ?　What elevation can you have much greater than where you now stand fix'd ?　If you do not grow giddy with your fancied false hopes, and fall from that glorious height you are already arrived to, and which, with the honest addition of loyalty, is of far more value and lustre, than to arrive at crowns by blood and treason.　This will last ; to ages last : while t'other will be ridicul'd to all posterity, short liv'd and reproachful here, infamous and accursed to all eternity.　Is it to make Cesario king ?　Oh what is Cesario to my Philander ?　If a monarchy you design, then why not this king, this great, this good, this royal forgiver ?　This, who was born a king, and born your king ; and holds his crown by right of nature, by right of law, by right of heaven itself ;（41）

Duke of Monmouth がいくら反抗しても許してきた国王 Charles II が背景にある。また，Tory 的な王権神授説の言説を Silvia が用いるところにも注目。

3-4　Philander to Silvia

If the strongest sword must do it,（as that must do it）why not mine still ? Why may not mine be that fortunate one ?　Cesario has no more right to it than Philander ;（45）

Philander が用いるレトリックは，力のあるものがトップに立つのだ，という身も蓋もない権力論。自分が国王にさえなれるかも，と夢想する Whig を，この作品は，徹底的に笑いものにしていく。

3-5　Philander to Silvia

he is so dull as to imagine that for his sake, who never did us service or good,（unless cuckolding us be good）we should venture life and fame to pull down a true monarch, to set up his bastard over us.　Cesario must pardon me, if I think his politics are shallow as his parts, and that his own interest has undone him ;（46）

実際の駆け落ち事件でも，Monmouth は Grey の妻と恋人関係にあり，Grey を ‘cuckold’ にしていたわけだが，その点がフィクションである *Love-Letters* の中でも強調される。

3-6　Philander to Silvia

I rushed upon her, who, all fainting, lay beneath my useless weight, for on a sudden all my power was fled, swifter than lightning hurried through my enfeebled veins, and vanished all : not the dear lovely beauty which I pressed, the dying charms of that fair face and eyes, the clasps of those soft arms, nor

the bewitching accent of her voice, that murmured love half smothered in her sighs, nor all my love, my vast, my mighty passion, could call my fugitive vigour back again : oh no, the more I looked—the more I touched and saw, the more I was undone.（59）

Philander は，「男を立てる」べき時，すなわち Silvia との逢い引きの場面で，いちど不能に陥っていたことが明らかにされる箇所。Behn が劇作で描いてきた，性的な魅力を備えた（それは政治力を備えていることの寓意でもある）王党派のヒーローとは正反対で，「寝取られ男」で「不能」のアンチ・ヒーローなのが Philander なのだ。

3-7　Philander to Silvia

—Come—sweet child, come : — '—' With that I pulled back and whispered— 'Heavens !　Would you make a mistress of me ?'　—Says he— 'A mistress, what would'st thou be a cherubin ?'　Then I replied as before— 'I am no whore, sir,'—'No,' cries he, 'but I can quickly make thee one, I have my tools about me, sweet-heart ; therefore let us lose no time, but fall to work :' this last raillery from the brisk old gentleman, had in spite of resolution almost made me burst out into a loud laughter, when he took more gravity upon him, and cried—'Come, come, Melinda, why all this foolish argument at this hour in this place, and after so much serious courtship ; believe me, I'll be kind to thee for ever ;' with that he clapped fifty guineas in a purse into one hand, and something else that shall be nameless into the other, presents that had been both worth Melinda's acceptance :（61）

もう一つ Philander のアンチ・ヒーロー性が追加されるエピソードが，この場面。すなわち，Silvia との密会を果たした 3-6 の引用場面の直後で，人目を避けるため女装して逃げようとする Philander を，侍女の Melinda と見間違えた Silvia の父が，手込めにしようとするのである。ここまで徹底的におとしめられた Philander に，彼自身が望んでいる「強い男が権力を手にする」という理想は果たされるはずもない。性と政党政治が密接に絡みあう Behn 作品に頻出する手法を用いて，この作品でも，Whig の男性が権力を得られないことを描き出している。

3-8　Silvia to Philander

I smil'd on you ; and sometimes kiss'd you too ; —but for my sister's sake, I play'd with you, suffer'd your hands and lips to wander where I dare not now ; all which I thought a sister might allow a brother, and knew not all the while the treachery of love : oh none, but under that intimate title of a brother, could have had the opportunity to have ruin'd me ; that, that betray'd me ; I play'd away my heart at a game I did not understand ; nor knew I when 'twas lost, by degrees so subtle, and an authority so lawful, you won me out of all. (22)

一方で Tory の Silvia は，小説の冒頭，ルールも分からないゲームに身を投じてしまったと自分を責めているように，自らが主体的に行動する人物と言うよりは，男性の欲望の対象となる女性としてスタートしている。

3-9　Narrator

She … loved to see adorers at her feet, especially those in whom all things, all

graces, charms of youth, wit and fortune agreed to form for love and conquest : she naturally loved power and dominion, and it was her maxim, that never any woman was displeased to find she could beget desire.（278）

Silvia の特徴を列挙する語り手の描写のなかに，「権力と支配」を愛する女だ，という一節がある。Silvia がどうやってそれを手にするかと言えば，男の中に欲望を生み出すことによって，言い換えると，自ら進んで欲望の対象となることで，逆に欲望する男性をコントロールしようとする，という戦略をとることによって，である。

3-10　Silvia to Octavio

I have but one game to play, and I beseech you not to be surprised at it, it is to promise to marry Sebastian : he is eternally at my feet, and either I must give him my vow to become his wife, or give him hope of other favours.　I am so entirely yours, that I will be guided by you, which I shall flatter him in to gain my liberty ;（297）

Philander との別れの後，Silvia は，ついに自らが「ゲーム」を主導する立場にまでなる。男性に欲望される女性となることを意識的におしすすめ，彼女が最も好む，財産も知恵も立場もある男性 Octavio を虜にするのだ。

3-11　Narrator

‘Go, tell your States,’ cried he,—‘they are a company of cynical fops, born to moil on in sordid business, who never were worthy to understand so great a happiness of life as that of nobler love.　Tell them, I scorn the dull gravity of

those asses of the commonwealth, fit only to bear the dirty load of State-affairs, and die old busy fools.'（281）

Silvia の Octavio に対する恋愛上の「勝利」には，共和主義者 Octavio への，Tory 主義者 Silvia の勝利という面もある。Octavio はオランダ人で Philander/Grey の支持者という設定だが，'commonwealth' という語は，王政復古以前の共和制下のイングランドも濃密に喚起する記号として機能していた。Silvia の恋愛上の「勝利」は，代理的に，イングランドにおける Tory の Whig に対する勝利を書き込むものでもある。

3-12　Narrator

'Oh how I hate thee, traitor ! who hast the impudence to continue thus to impose upon me, as if I wanted common sense to see thy baseness : for what can be more base and cowardly than lies, that poor plebeian shift, condemned by men of honour or of wit.'　Thus she spoke, without reminding that this most contemptible quality she herself was equally guilty of, though infinitely more excusable in her sex, there being a thousand little actions of their lives, liable to censure and reproach, which they would willingly excuse and colour over with little falsities ; but in a man, whose most inconstant actions pass oftentimes for innocent gallantries, and to whom it is no infamy to own a thousand amours, but rather a glory to his fame and merit ; I say, in him,（whom custom has favoured with an allowance to commit any vices and boast it）it is not so brave.（312）

作品後半には，突如語り手「私（I）」が登場し，三人称と一人称が混在

した語りとなっていくのだが，その「私」は，「男には許されるが女には許されないもの」の存在を認識し，それを責めさえしている。それは端的には「浮気」のことで，男性の性的不品行はそれを自慢することさえ許すのが慣習だが，Philander の場合は誉められたものではなかった，と語り手は責めている。

3-13　Narrator

Never was any thing so magnificent as this ceremony, the church was on no occasion so richly adorned ; Sylvia chanced to be seated near the Prince of Mechlenburgh, who was then in Brussels, and at the ceremony ; sad as she was, while the soft music was playing, she discoursed to him, though she knew him not, of the business of the day : …I myself went among the rest to this ceremony, having, in all the time I lived in Flanders, never been so curious to see any such thing.（379-80）

この語り手「私」には，濃密に作家 Behn その人を喚起するところがある。第二次英欄戦争の折，Behn がフランダース地方にスパイとして赴いていたことは周知であり，「私がフランダースに住んでいた頃」と語り出す「私」に，Behn その人を感じない方が不自然なほどだとさえ言える。

Love-Letters の中には，Behn と同定されたがっている語り手「私」が，性的な二重規範に異議申し立てをしている，という構図があるのだ。

3-14

SIR CAUTIOUS.　But being so, if I shou'd be good-natur'd, and give thee leave to love discreetly—

LADY. FULBANK.　I'd do't without your leave, Sir.

SIR CAUTIOUS.　Do't—what, cuckold me ?

LADY. FULBANK.　No, love discreetly, Sir, love as I ought, love honestly.

SIR CAUTIOUS.　What, in love with any body, but your own Husband ?

LADY. FULBANK.　Yes.（*The Lucky Chance*, 5.2.118-124）

Love-Letters と同時期に書かれた芝居の中で，Behn は，あけすけに「浮気」を正当化する女性を登場させている。金のために仕方なく結婚している夫の Sir Cautious に向けて，Lady Fulbank は「自分の心のままに」人を愛することを宣言する。性的二重規範への対抗宣言をする，極めて興味深い女性キャラクターを，Behn は *Love-Letters* と同時期に描いていた。

3-15

All I ask, is the Priviledge for my Masculine Part the Poet in me,（if any such you will allow me）to tread in those successful Paths my Predecessors have so long thriv'd in, to take those Measures that both the Ancient and Modern Writers have set me, and by which they have pleas'd the World so well : If I must not, because of my Sex, have this Freedom, but that you will usurp all to your selves ; I lay down my Quill, and you shall hear no more of me, no not so much as to make Comparisons, because I will be kinder to my Brothers of the Pen, than they have been to a defenceless Woman ; for I am not content to write for a Third day only.　I value Fame as much as if I had been born a Hero ; and if you rob me of that, I can retire from the ungrateful World, and scorn its fickle Favours.（Preface to *The Lucky Chance,* 217）

その *The Lucky Chance* の出版に際して，Behn は，自分が女性であるが故に文壇で正当に評価されないことへの憤りをあらわにしていた。作家活動を 10 年以上続けてきて，それなりに作家としての自信や自負もあったはずだが，それが性別のせいで評価を下げられている，と Behn は感じていたようだ。

Love-Letters のなかで，Silvia が二重規範の存在のために苦境に陥ることを，作家 Behn を強く想起させる語り手「私」は指摘している。男性には許されるが女性には許されないという状況に，文壇においても憤っていたベインは，社会においても存在する同様の二重規範に，Silvia の姿をとおして挑戦しているのだ。

引　用　文　献

Behn, Aphra. *The Works of Aphra Behn*. Ed. Janet Todd. Vols. 1-7. London : William Pickering, 1992-1996.

周縁から中心へ，そして中心なき周縁へ
——Muriel Spark の *The Go-Away Bird* を読む

遠　藤　健　一

要　　旨

Muriel Spark の小説 *The Go-Away Bird* を植民地主義における〈中心ー周縁〉という参照枠で読んだ場合，ヒロイン＝ Daphne は南アフリカのポスト植民地主義的状況の犠牲者として読みことができる。Daphne の短い境涯の最期で明らかになるのは，オーセンティクな中心という場所が常に不在であったという事態である。つまり，中心と思しき場所は常に既に周縁化（＝クレオール化）され，周縁と思しき場所が中心なき周縁でありながら，周縁の内部に新たな〈中心ー周縁〉が産出され続ける外ないという事態であった。この限りにおいて，Daphne の死は，確かに，ポスト植民地主義的状況下における悲劇的な死と言える。

しかし，小説の最後の最後にさりげなく書き込まれる鳥類学者のモチーフの変奏「ornithologist＝RC（鳥類学者＝カトリック教徒）」は，カトリックへ転向した作者 Spark の，カトリック作家としての書くことへの自嘲気味の（とはいえ覚悟の上での）宣明としても読めるのではないか。Daphne の生を弄んだ大衆作家 Ralph に自らを重ね書きする作者 Spark。ストーリー・レベルで Daphne の生を蹂躙する Ralph とディスコース・レベルで Daphne の生を蹂躙する Spark。*The Go-Away Bird* の「三人称，神の（如き）全知の語り」は，カトリック作家としての Spark の選択の余地のない語りであった。Daphne の死もまた，等並みな悲喜劇的なひとの死と言える。

そして，地政学的な〈中心－周縁〉関係もまた神学的な〈中心（神）－周縁（人間）〉関係の周縁に回収される外ないのである。

ハンドアウト

目次

1. はじめに：Muriel Spark,〈中心－周縁〉という概念装置，〈クレオール〉という概念装置
2. 南アフリカの植民地の歴史
3. 南アフリカの言語状況
4. *The Go-Away Bird* のストーリー（物語内容）とディスコース（物語言説）
5. Daphne の生の軌跡と〈中心－周縁〉，〈中心なき周縁＝クレオール〉という現実／真実
6. おわりに：Daphne の死は悲劇的か喜劇的か？ポスト植民地主義的読解を超えて

1. はじめに：Muriel Spark，〈中心－周縁〉という概念装置，〈クレオール〉という概念装置

(1) Muriel Spark (1918-2006)

Dame Muriel Spark (born Feb. 1, 1918, Edinburgh, Scot.—died April 13, 2006, Florence, Italy), British writer best known for the satire and wit with which the serious themes of her novels are presented.

Spark was educated in Edinburgh and later spent some years in Central Africa ; the latter served as the setting for her first volume of short stories, *The Go-Away Bird and Other Stories* (1958). She returned to Great Britain during World War II and worked for the Foreign Office, writing propaganda. She then served as general secretary of the Poetry Society and editor of *The Poetry Review* (1947-49). She later published a series of critical biographies of literary figures and editions of 19th-century letters, including *Child of*

Light : A Reassessment of Mary Wollstonecraft Shelley（1951 ; rev. ed., *Mary Shelley*, 1987）, *John Masefield*（1953）, and *The Brontë Letters*（1954）. Spark converted to Roman Catholicism in 1954.

Until 1957 Spark published only criticism and poetry. With the publication of *The Comforters*（1957）, however, her talent as a novelist—an ability to create disturbing, compelling characters and a disquieting sense of moral ambiguity—was immediately evident. Her third novel, *Memento Mori*（1959）, was adapted for the stage in 1964 and for television in 1992. Her best-known novel is probably *The Prime of Miss Jean Brodie*（1961）, which centres on a domineering teacher at a girls' school. It also became popular in its stage（1966）and film（1969）versions.

Some critics found Spark's earlier novels minor ; some of these works—such as *The Comforters*, *Memento Mori*, *The Ballad of Peckham Rye*（1960）, and *The Girls of Slender Means*（1963）—are characterized by humorous and slightly unsettling fantasy. *The Mandelbaum Gate*（1965）marked a departure toward weightier themes, and the novels that followed—*The Driver's Seat*（1970, film 1974）, *Not to Disturb*（1971）, and *The Abbess of Crewe*（1974）—have a distinctly sinister tone. Among Spark's later novels are *Territorial Rights*（1979）, *A Far Cry from Kensington*（1988）, *Reality and Dreams*（1996）, and *The Finishing School*（2004）. Other works include *Collected Poems I*（1967）and *Collected Stories*（1967）. *Curriculum Vitae*（1992）is an autobiography. Spark was made Dame Commander of the British Empire in 1993.

（http://global.britannica.com/EBchecked/topic/558274/Dame-Muriel-Spark）

(2) 〈中心－周縁〉という概念装置

植民地主義における〈中心－周縁〉：宗主国－植民地（植民地主義的支配－被支配関係）

「ここで立てなければならないのは，次の問いである。すなわち，戦後日本の「国体」ともいうべき日米安保体制もまた犠牲のシステムであり，そこで犠牲とされたのはまさに沖縄ではなかったか。〔中略〕もちろん，両者〔福島と沖縄〕の違いを軽視することもできない。「銃剣とブルドーザー」で建設され，そのまま居座り続ける米軍基地と，立地自治体からの誘致を前提とする原発とは同じではありえない。だが，その他もろもろある違いを踏まえたうえで，両者の類似点を考えていくと，そこに浮かび上がってくるのはやはり一種の植民地主義ではないか，という思いを禁じえない。戦後日本国家は，一つには米軍基地の沖縄への押しつけというかたちで，もう一つには原発の地方への集中立地というかたちで，中心と周縁とのあいだに植民地主義的支配・被支配の関係を構築してきたのではないだろうか。」（高橋哲哉『犠牲のシステム：福島・沖縄』集英社，2012：73-74）

(3) クレオールという概念装置

「クレオール」

① 〔Creole〕植民地で生まれたネイティブ以外の人々。本来はスペイン語で「クリオーリョ」といい，新大陸生まれのスペイン系の人々を指したが，後，植民地生まれの白人を指すようになり，やがて混血，さらにアフリカ系をも含むように意味が広がった。

② 宗主国と植民地などの二つの言語が混成した言語。母語とする話者をもつ点で，ピジンと区別される。

（松村明編『大辞林第三版』三省堂，2006；750）

「クレオール的文化」

「（文化というものを考える際に）静止的な「地域的伝統」（local tradition）が，ダイナミックで侵略的な「グローバリゼーション」と衝突すると捉えるよりも「ローカル」な文化と「グローバル」な文化が相互作用して互いに構成し合う，より複合的でより可変な形成方式を検証することが，大変重要になってきています…。ウルフ・ハンネーツや他の論客たちが提起した「クレオール文化」概念のほうが，より有意味です…。ハンネーツが考証したごとく，言語学的な意味での「クレオール」とは，現代社会における文化相互作用のプロセス理解に有効なヒントを提供してくれています。

言語学における研究では，多様な型を持つ「クレオール」の形成が指摘されているのは，ご存知のとおりです。植民者側のハイラーキーによるターミノロジーでは，“basilects”，“acrolects”，“mesolects” と三分類が成されています。

“basilect” あるいは “low language” とは，植民者の語彙が “native” の文法に編入された時に形成されます。

“acrolect” あるいは “high language” とは，それとは逆に植民者の言語に基礎を置く文法に，植民地化された “native” 言語の語彙が組み込まれて形成されるクレオールの形態です。

“mesolect” あるいは “middle language” とは，前二者の中間に位置する無数の形態です。」

（モーリス・鈴木テッサ「多様性をフォーマット化する ― ローカルな知とグローバリゼーションの文法」荒このみ・谷川道子編『境界の「言語」― 地球化／地域化のダイナミクス』新曜社，2000：28-30）

「クレオール主義」

「「クレオール主義」とは，なによりもまず，わたしたちの言語・民族・国家にたいする自明の帰属関係を解除し，そのことによって自分という主体のなかに，四つの方位，一日のあらゆる時間，四季，砂漠と密林と肥沃な大平原とをひとしくよびこむことなのだ。固有言語の閉鎖空間を離脱して複数のことばの主体的併用を選択し，民族の境界を踏えて混血の理念を実践し，国家という制度からの意志的なエミグレーションをこころみること…。国際化やバイリンガリズムやトランスナショナルといった標語からもっとも遠いところで，「クレオール」のエシックスは，いま世界のすべての住人にそれぞれの単独性にたった連帯をうながしはじめている。」

（今福龍太『クレオール主義』青土社，2001：281）

2. 南アフリカの植民地化の歴史

先住民族：コイコイ（Khoikhoi 牧畜／Hottentot）；サン（San 狩猟／Bushman）。

紀元後 3 世紀頃：バントゥー系民族（Bantu peoples）の南下。

1652 年以降：オランダ東インド会社による Jan van Reibeek の派遣。ケープ植民地の成立とオランダ系移民の増加。ボーア人（後に，アフリカーナー人）。加えて，フランスのユグノーをはじめとするヨーロッパ系プロテスタント移民。

18 世紀末：イギリス人，金やダイヤモンドの鉱山資源を求めて到来。やがて，ケープ植民地を占領。

19 世紀初頭：オランダからケープ植民地をイギリスが正式に譲渡。イギリスからの移民増加。グレイト・トレック。アフリカーナー人（Afrikaners）の諸国家成立（ナタール共和国，トランスヴァール共和国，オレンジ自由

国)。ナタールは1840年代にイギリス・ケープ植民地に併合。

1880-1881年：第一次ボーア戦争（イギリスの敗北)。

1899-1902年：第二次ボーア戦争（イギリスの勝利，トランスヴァール共和国，オレンジ自由国をイギリス領として併合)。

1910年：イギリス，ケープ州，ナタール州，トランスヴァール州，オレンジ州の4州からなる南アフリカ連邦として統合，その自治を認める。

1931年：ウェストミンスター憲章によるイギリス連邦内の一国家として独立。

1939年：第2次世界大戦に連合国の一員として参戦。

1948年：アフリカーナーを中心とする国民党が政権を掌握／アパルトヘイト政策の実施。

1961年：イギリス連邦から脱退。立憲君主制に代えて共和制を採用，南アフリカ共和国。

1994年：全人種参加の総選挙実施。アフリカ民族会議（ANC）が勝利。ネルソン・マンデラ議長が大統領に。

3. 南アフリカの言語状況

1994年以降の公用語：

ペディ語，ソト語，ツワナ語，スワティ語，ベンダ語，ツォンガ語，アフリカーンス語*，英語，ンデベレ語，コーサ語，ズールー語。

それ以外の使用言語：コイ語，ナマ語，サン語。

＊アフリカーンス語（Afrikkans)：かつての宗主国の言語であるオランダ語にフランス語やドイツ語，現地諸語，マレー語，そして英語の影響を受けた典型的なクレオール語。オランダ系白人のアフリカーナー人の他，カラードの一部も母語としている。

Cf. 楠瀬佳子「南アフリカの言語政策 ― マルチリンガリズムへの道」『京都精華大学紀要』23 号（2002）：52-64.

（1）共和国の公用語はペディ語，ソト語，ツワナ語，スワティ語，ベンダ語，ツォンガ語，アフリカーンス語，英語，ンデベレ語，コーサ語，ズールー語である。（2）わが民族固有の言語の歴史的に弱体化された使用と地位を認識し，国家はこうした言語の地位と活用を向上するために効果的で積極的な措置をとらなければならない。（3）中央政府および州政府は，公用語の使用，実用，費用，地域状況，必要性のバランス，住民あるいは州状況の選択を考慮して，行政の目的にどの公用語も使用する。中央政府も州政府も少なくとも二つの公用語を使用しなければならない。地方自治体は住民の言語使用と選択を考慮しなければならない。（4）中央政府および州政府は，議会や法案により，公用語の使用を規定し，監視しなければならない。条項の細則（2）から逸脱することなく，すべての公用語は同等に尊重され，平等な扱いを受けなければならない。（5）国会で設立されたパン・南アフリカ言語委員会はつぎの点を促進しなければならない。1 公用語，2 コイ語，ナマ語，サン語，3 身ぶり言語を促進させ，それらの言語の発展と使用のために条件を整えなければならない。

（南アフリカ共和国憲法第一章第 6 条抜粋　楠瀬：55）

4.　*The Go-Away Bird* のディスコース（物語言説）とストーリー（物語内容）

ディスコース（物語言説）

語りの特徴：3 人称（異質物語世界的）語り／語り手による焦点化（いわゆる全知の視点）を専ら採用，あるいは，登場人物による焦点化（いわゆ

る内的視点）の徹底した排除*／速度の変化（情景法（対話），要約法と省略法の多用）

物語言説の時間あるいはプロット：語りの基準：1934 年(b)／b-a-c-d-e…

＊ここでの焦点化については，Goran Nieragden “Focalization and Narration : Theoretical and Terminological Refinements.” *Poetics Today*. 23.4（2002）：685-97；遠藤健一「オニールの焦点化論の可能性」『言説のフィクション ― ポスト･モダンのナラトロジー』松柏社（2001）；253-62 を参照。

ストーリー（物語内容）

背景：南アフリカのケープ植民地他とイングランド。

主な登場人物：

Daphne du Toit：父方アフリカーナー，母方英国系。ヒロイン，周縁から中心を求め，中心なき周縁にて非業の死を遂げる。その死の意味とは？［ダフネ：ギリシャ神話ダフネに由来，月桂樹の意；du Toit > Dutoit，アフリカーナーの苗字，フランス語由来，ユグノー植民者を含意］

Uncle Chakata（James Patterson）：英国人。Daphne の母の兄。英国的名誉（English Honour）の墨守とクレオール的生の矛盾に生きる。［チャカタ：ネイティヴの名，Patterson > Son of Patrick（Saint Patrick）アイルランド起源の苗字］

Mrs. Chakata：アフリカーナーの出自。英国的名誉の墨守とクレオール的生の矛盾に生きる夫の犠牲者。

Old Tuys：アフリカーナーの出自。代理復讐の試みの挫折と成就。

Donald Cloete：英国人。ヒロインの無償の援助者。Cambridge 出身，クリ

ケット選手。RFC［イギリス陸軍航空隊 Royal Flying Corp は第一次世界大戦の時期のイギリス軍の陸上航空部隊である。1918 年 4 月にイギリス海軍航空隊と統合され，イギリス空軍の母体となった。］の所属。物語りの現在である 1934 年時点で 56 歳，町役場の職員（The Town Clark of the dorp）。Daphne の相談相手にして庇護者。

Ralph Mercer：英国人作家。Daphne と一番長く関係が続いた異性。創作の手段としてのみ Daphne を利用。‘Go’way’ というオブセッションに，多分，生涯悩まされるはず。

主な出来事の再配列

1922 年　Daphne，Dutch の父と English の母の間に生まれる。

1928 年　Daphne 6 歳。両親の病死によりケープ植民地（Cape Colony）の農場主である母方の伯父 Chakata の家に引き取られる。

1934 年　Daphne 12 歳。the go-away bird の存在を初めて自覚／The Coates family，35 マイル離れた農場に。John Cotes，Mrs. Coates からタバコ・マネージャー Old Tuys と Chakata 一家の特殊な関係の示唆（Mrs. Chakata の寝室のリボルバーをめぐって）。／Donald を訪れ，Daphne が生まれる 15 年前に起こった Mrs. Chakata の自殺をめぐる一連の出来事を知る。Tuys を解雇できない Chakata の “English honour”（240）。［テクスト C］

1934-38 年　Daphne 12-16 歳。Daphne 典型的なイギリス美人に。但し，父方の血筋の関係のブロンドが非イギリス的／既婚の従姉と一緒にケニヤ旅行／Mrs. Cotes と一緒にヨハネスブルグに買物旅行。

1938 年　Daphne 16 歳。首都プレトリア［現在は，プレトリア（行政府），ケープタウン（立法府），ブルームフォンテーン（司法府）に首都機能を分散］の教

員養成大学への入学許可。

1939 年　Daphne 17 歳。教員養成大学 1 学期終了の帰郷時，Chakata, Daphne にリボルバーを持たせる。Daphne，Makata's Kraal への訪問，その帰路，Old Tuys に尾行される／クリスマス休暇の帰郷時，市中からの帰路 Old Tuys 運転の車に急接近され，落馬し怪我。校長の Mr. Parker の車で自宅農場まで送り届けてもらって事なきを得る。

1942 年　Daphne 20 歳。プレトリアで教職に就く。R.A.F. 訓練基地でイギリス人パイロットたちにイギリス人であるという理由で "collectively"（246）に魅了される。

1943 年　Daphne 21 歳。幼友達の John Coates，戦死／イギリス空軍大尉と婚約，翌週，婚約者交通事故死／アフリカーナーのエリートである父方の The du Toits の居住しているケープタウンの学校に。

1944 年-　The du Toits に同居／賜暇で帰郷オックスフォード出身の従兄との交友／「イギリス人らしいイギリス人」と思われた海軍将校 Ronald（"Ronald was the most typical Englishman, Daphne thought, she had ever met." 248）との婚約／ Ronald 既婚者であることが判明／ Daphe, Ronald の一件を The du Toits と一緒に生活しているが故の出来事と "irrationally"（249）に考え，イギリス船舶の多い港町 Durban の学校へ。

1946 年-47 年　Daphne 24 歳。イギリス Patterson 家へ／出発前の帰省，帰省中の Old Tuys の事件と Donald。［テクスト D］／ Patterson 家滞在。従姉 Linda 28 歳（交通事故で夫と死別後，実家に。週末には既婚の法廷弁護士との逢瀬のためにロンドンに）。リウマチで苦しむ伯父 Uncle Pooh-bah，認知症を患う伯母 Aunt Sarah，介護を必要としている女中 Clara。Linda, Daphne の滞在を歓迎。Linda と Daphne の「場所」

に対する認識の相違（‘How could you leave that lovely climate and come to this dismal place ?’　Linda would say.　‘But,’ Daphne said happily, ‘this at least England.’ 253）／ Linda 不在の週末に従兄弟たちが Patterson 家に，Molly と Rat，‘unhealthy’（254）であることを理由に，Patterson 家からできるだけはやく出るように Daphne に助言，Daphne はこのような状況をこそ ‘it’s typically English.’ と認識／ Linda との調整の結果，漸く，ケープ植民地の知人の親戚 Mr. and Mrs. Pridham からの招待を受けロンドンに。60 代の整形外科医 Mr. Pridham が Daphne を性的対象に，Mrs. Pridham がそれを意図的に煽るという不健全。従兄 Mole のコメント ‘she hot him up.’（256）／ Mole，友人 Michael Casse 及びその母 Greta Casse を紹介。Greta のフラットにロンドン・シーズンの間（6 月末まで）滞在することに。Greta による法外な請求（下宿代の他，パーティ開催，トイ・プードルなどの購入）。Chakata へのさらなる送金の依頼。Chakata の財政状況の悪化（持ち馬への虫害，タバコの不作；ケニアの長女夫婦の死に伴う孫たちの養育という新たな状況），翌年分の仕送りを送金。5 月中旬 Greta と訣別［テクスト E］。Daphne，Henley の私立学校の教員に，Poo-bah と中年の家政婦との 3 人暮らし，Clara は病没し，Sarah はホームに。

1947 年-　Daphne 25 歳。春，Linda 病死。Linda の恋人 45 歳の既婚の法廷弁護士 Martin Grindy による Daphne へのアプローチ。夏, Linda に代って Martin Grindy の恋人に。／ Old Tuys の脳卒中の報せが Chakata によってもたらされる／秋，Martin の妻，学校に／ Daphne，同僚の美術教師 Hugh の助言でロンドンの公立学校に／ Hugh の同棲の求めを「神経に触る」（I’ve got nerves.）という理由で拒否，友人としての関係を維持／ Hugh の芸術家仲間達との Soho 地区での交遊。

1948 年-1950　Daphne 26 歳 -28 歳。従兄 Mole から，Greta Casse の息子 Michael が 10 歳年長の女性と結婚しケープ植民地へ移住との情報を得て，強い郷愁の念に駆られる／ Hugh，Soho のパブで，偶然会った同級生の小説家 Ralph Mercer を紹介／ Daphne, Ralph と 2 年間の同棲。Ralph は小説執筆の準備（データ収集）のために Daphne を必要とし，Daphne は Ralph を熱愛する。小説執筆のために Daphne のもとを離れる，そしてフラットからの一方的な退去勧告と離別［テクスト F］。

1950 年-　Daphne 28 歳。失意のうちに植民地に帰郷。脳卒中の後遺症で過去の怨念から解放されている Old Tuys。Chakata はもはや ‘a goad for Old Tuys’ ではない Daphne を必要とはしていない。（It struck Daphne that she was useless to Chakaata now that she was no longer a goad for Old Tuys.　She decided to stay at the farm no longer than a month.　She would get a job in the Cpital.　268）帰郷後 3 日目に Daphne，Old Tuys のレイヨウ狩りの犠牲に［テクスト H］／ Daphne の葬儀には，あの Michael Casse 夫婦も参列。

1951 年-　Ralph，小説執筆への焦燥，大衆に支持される作家から批評家に支持される作家への変貌の必要性／ Daphne の「悲劇的な死」をテーマにした小説執筆を目論み，植民地に／ Michael Casse 夫婦の案内で Daphne の墓に，Daphne にしか聞こえなかった the go-away bird の鳴き声が Ralph にも聞こえる，Ralph 追われるように帰国。以後，the go-away bird の鳴き声がオブセッションに。

テクスト

A.　［導入部］

All over the Colony it was possible to hear the subtle voice of the grey-crested

lourie, commonly known as the go-away bird by its call, 'go' way, go' way.'
It was possible to hear the bird, but very few did, for it was part of the background to everything, a choir of birds and beasts, the crackle of vegetation in the great prevalent sunlight, and the soft rhythmic pad of natives, as they went barefoot and in single-file, from kraal to kraal.（232）
［植民地中で，ハイイロエボシドリの微かな鳴き声を聞くことができた。「立去れ（ゴーウエィ），立去れ（ゴーウエィ）」という鳴き声からゴーウェイ・バードとして知られていた。その鳴き声は，聞こえるには聞こえるのだが，ほとんどだれも聞くことはなかった。なぜなら，ありとあらゆるものの一部にと化していたからである。他の鳥や獣の鳴き声，あまねくあたる強い日差しに野菜がたてるパリパリ音，そして部落から部落へと裸足で列になして行き来する原住民たちの柔らかでリズミカルな足音。］（以下，すべて拙訳）

B.　［Daphne の出自と Chakata の言語偏向あるいは植民地における立ち位置］

Though it was a British colony, most of the people who lived in the dorp and its vicinity were Afrikaners, or Dutch, as they were simply called. Daphne's father had been Dutch, but her mother had been a Patterson from England, and since their death she had lived with her mother's relations, the Chakata Pattersons, who understood, but preferred not to speak Afrikaans. Chakata was sixty, he had been very much older than Daphne's mother, and his own children were married, were farming in other colonies. Chakata nourished a passionate love for the natives. No one had called him James for thirty-odd years ; he went by the natives' name for him, Chakata. He loved the natives as much as he hated the Dutch.（233）

［イギリスの植民地だったのだが，町やその界隈の住人たちの大半はアフリカーンス語を話す人たちだった，彼らは簡単にダッチと呼ばれていた。ダフネの父親はダッチだったが，母親はイギリスのパターソン家の出だった。両親の死後，ダフネは，母親の親戚のチャカタ・パターソン家の人たちと生活してきた。チャカタはアフリカース語を解せたが，話すのを好まなかった。チャカタは 60 歳だった。ダフネの母親とは年齢がかなり離れていた。子どもたちは結婚していて別の植民地で農場を経営していた。チャカタは原住民に強い愛情を抱いていた。30 余年の間，だれも彼のことをジェイムズと呼ぶことはなかった。原住民の名前であるチャカタで通っていたのである。チャカタは，ダッチを嫌悪するぐらいに原住民を愛していた。］

C.　［Daphne, Chakata と Old Tuys の関係について Donald から聞き出す］

‘Why does uncle Chakata keep on Old Tuys ?’

‘I don’t want to lose my job,’ he said.

‘Upon my honour,’ she said, ‘If you tell me about Old Tuys I shan’t betray you.’

‘The whole colony knows the story,’ said Donald, ‘but the first one to tell it to you is bound to come up against Chakata.’

‘May I drop dead on this floor,’ she said, ‘if I tell my Uncle Chakata on you.’

‘How old are you, now ?’　Donald said.

‘Nearly thirteen.’

‘It was two years before you were born—that would make it fifteen years ago, when Old Tuys…’

Old Tuys had already been married for some time to a Dutch girl from Pretoria.　Long before he took the job at Chakata’s he knew of her infidelities.

They had one peculiarity : her taste was exclusively for Englishmen. The young English settlers whom she met in the various establishments where Tuys was employed were, guilty or not, invariably accosted by Tuys : 'You committed adultery with my wife, you swine.' There might be a fight, or Tuys would threaten his gun. However it might be, and whether or not these young men were his wife's lovers, Tuys was usually turned off the job.

….

Tuys hoped eventually to get a farm of his own. Chakata, who knew of his troubles, took Tuys on to learn the tobacco sheds. Tuys and his wife moved into a small house on Chakata's land. 'Any trouble with the lady, Tuys,' said Chakata, 'come to me, for in a young country like this, with four white men to every one white woman, there is bound to be trouble.'

There was trouble the first week with a trooper.

….

Hatty Tuys was not beautiful : in fact she was dark and scraggy. However, Chakata not only failed to reform her, he succumbed to her. She wept. She said she hated Tuys.

….

［Donald said］'Tuys found out. He went to Mrs. Chakata and tried to rape her.'

'Didn't it come off.'

'No, it didn't conme off.'

'It must have been the whisky in her breath. It must have put him off,' said Daphne.

'In England,' said Donald, 'girls your age don't know very much about

these things.’（239-40）

[「どうしてチャカタおじさんはオールド・トイズを雇い続けているの？」

「ぼくは仕事を失いたくない」とドナルドが言った。

「オールド・トイズのことを教えてくれたら，わたし，名誉に誓って，あなたのことを絶対裏切ったりなんかしないわ」

「植民地中の人たちがこの話は知っているのだ，でも，最初に君にそれを教えた人間は，チャカタと対決せざるを得なくなる」とドナルドが言った。

「チャカタ伯父さんにあなたのことを告げ口するくらいなら，わたし，ここで死んでもよくってよ」とダフネは言った。

「いくつになった？」とドナルドが言った。

「まもなく 13 よ」

「君が産まれる 2 年前に起きたことだから，もう 15 年になるな」

　オールド・トイズは，プレトリア出身のダッチの娘と結婚してしばらく経っていた。チャカタのところで仕事をする大分前から，トイズは妻の男癖の悪さは知っていた。相手の男たちにはひとつの特徴があった。彼女の好みはもっぱらイギリス人男性だったのだ。トイズが雇われていた先々で出会った若いイギリス人の移住者たちは，実際やっていようといまいと，トイズに必ず声をかけられた。「てめえ，オレの女房に手を出しやがったな，この野郎」。喧嘩になると，トイズは銃で脅した。しかし，こういった若い男たちがトイズの妻の愛人であろうとなかろうと，結局，トイズは仕事を辞めるのが常だった。…。

　トイズは，いずれ自分の農場を持ちたいと思っていた。タバコ栽培について知りたいと思っていたチャカタは，厄介事は承知の上でトイズを雇い入れた。トイズ夫妻はチャカタの地所の小さな家に越して来た。「トイズ，奥さんがらみの厄介事は全部このわたしに，いいか，この国みたいな若い国では，白人男 4 人に白人女は 1 人だけだから，厄介事は避けられないからな」とチャカタは言った。

1週目にして白人騎馬警官との厄介事があった。…。

ハティ・トイズは美しくはなかった。実際，色黒で痩せぎすだった。しかし，チャカタはハティに行いを改めさせるどころか彼女の誘惑に負けてしまったのだ。ハティは泣いた。トイズが嫌いだと言った。…。

（ドナルドが言った。）「トイズにばれたんだ。トイズはチャカタ夫人のところに行って，犯そうとしたんだ。」

「でも，できなかったんでしょ」

「そう，できなかったんだな」

「ウィスキー臭い息のせいね。それでトイズはやる気をなくしたのよ」とダフネが言った。

「イギリスでは，君ぐらいの年の女の子は，そういうことには疎いんだからな」とドナルドが言った。］

D ［Tuys による Daphe 襲撃と Donald による阻止］

‘Stop there,’ she heard him［Old Tuys］say, ‘or I shoot.’

Her hand was on her revolver, and it was her intention to wheel round and shoot before he could aim his gun. But as she returned she heard a shot from behind him and saw him fall. Daphne heard his assailant retreating in the bush behind him, and then on the veldt track the fading sound of bicycle wheels.

Old Tuys was still conscious. He had been hit in the base of the neck. Daphne looked down at him.

….

There were few white men in the Colony who rode bicycles, and only one in the district. Bicycles were used mostly by natives and a few schoolboys.

All the children were away at school. Daphne's unknown protector was therefore either a passing native or Donald doing his rounds. Moreover, there was the question of the gun. Few natives, if they owned firearms, would be likely to risk betraying this illicit fact. And few natives, however gallant, would risk the penalty for shooting a white man.（251-252）

[「立ち止まれ，でないと，撃つぞ」とオールド・トイズが言うのをダフネは聞いた。

ダフネの手にはリボルバーが握られていた。ダフネは，オールド・トイズが銃を構える前に，弾倉を廻転させ撃つつもりだった。しかし，振り向きざまにオールド・トイズの背後で銃声がし，オールド・トイズが倒れるのをダフネは見た。それから，草原の道を自転車が走り去るのを耳にした。

オールド・トイズは意識があった。首筋のところを撃たれていた。ダフネはオールド・トイズを見下ろした。…。

自転車に乗っている白人なんて植民地にはまずいなかった，この地方となるとたったひとりだけだった。自転車は，その大半が原住民か，あるいは，ごく少数の生徒たちにしか使われていなかった。子どもたちは全員が学校だった。だれか分からないダフネの庇護者は，従って，通りがかりの原住民か巡回中のドナルドということになる。さらに，銃の問題もあった。原住民であれば，銃を所持していたにしても，このような違犯をおかすものなどほとんどいないだろう。勇気があったとしても，白人銃撃の処罰まで受けるリスクをおかすものなどいないだろう。]

E ［Greta との訣別の場面］

'I don't want to keep you against your will, Daphne. But if you leave now you must compensate me fully. Then, if you want to go away, go away.'

'Go'way. Go'way, go to hell,' said the budgerigar, which had now risen to its perch.

‘And then there’s the bird,’ said she. ‘I bought it for you this afternoon. I thought you’d be thrilled.’ She began to weep.

‘I don’t want it,’ said Daphne.

‘All my girls have adored their pets,’ Greta said.

‘Come here darling,’ said the bird. ‘Go’ way, go to hell.’

Greta was doing a sum. ‘The bird is twenty guineas. Then there’s the extra clothes I’ve ordered—’

‘Go’way. Go’way,’ said the bird.（261）

[「ダフネ，わたしはあなたの意志に反してまであなたを留めおきたくはありません。しかし，いま出て行きたいというのであれば，十分な賠償をしなければなりません。その上で，立去り（ゴーウエィ）たければ，立去り（ゴーウエィ）なさい」

「立去れ（ゴーウエィ），立去れ（ゴーウエィ），行っちまえ」とセキセイインコが喋った。セキセイインコは止まり木にとまっていたのだった。

「あら，それから，この鳥もいましたわ。あなたのためにと，今日の午後，購入しましたの。とても喜んでくれるものと思っておりましたのに」グレタは泣き出した。

「欲しくありません」とダフネが言った。

「わたしがお世話しましたお嬢様方はみなさんペットをとても愛してくれました」とグレタが言った。

「こっちにおいでよ，ねえ。立去れ（ゴーウエィ），行っちまえ」と鳥が言った。

グレタが請求金額を計算しだした。「この鳥が 20 ギニー。注文しておいた特別のお衣装もありますし —」

「立去れ（ゴーウエィ），立去れ（ゴーウエィ）」と鳥が鳴いた。]

F. ［Ralph による Daphne への離別の表明］

Three weeks later he wrote from his mother’s address to suggest that she

move out of the flat.　He would make a settlement.

She telephoned to his mother' house.　'He won't speak to you,' his mother said.　'I'm ashamed of him, to tell the truth.'

Daphne took a taxi to the house.

'He's upstairs writing,' his mother said.　'He's going away somewhere else tomorrow.　I hope he stays away, to tell the truth.'

'I must see him,' said Daphne.

His mother said, 'He makes me literally ill.　I'm too old for this sort of thing, my dear.　God bless you.'

She went and called upstairs, 'Ralph, come down a moment, please.'　She waited till she heard his footsteps on the stairs, then she disappeared quickly.

'Go away,' said Ralph to Daphne.　'Go away and leave me in peace.' (268)

[3 週間後，母親の住所からダフネ宛にレイフから手紙があった，フラットから退去するようにしたためられていた。関係を清算したいと。

ダフネは彼の母親に電話をした。「息子はあなたとは話しませんよ。本当のことを言えば，わたしは息子のことを恥じているのです」と母親が言った。

ダフネはタクシーをひろって，母親の家まで行った。

「レイフは 2 階で執筆中です。明日，レイフは出かけることになっています。本当のことを言えば，家には戻って来て欲しくないと願っています」

「私は彼に会わなければなりません」とダフネは言った。

「息子は本当にわたしの具合を悪くさせます。この種の問題にはわたしは年をとり過ぎています。本当に，あなたに神さまのご加護ありますように」と彼女は言った。

母親は行って 2 階に声を掛けた「レイフ，お願いだから下におりてきてちょうだい」母親は階段にレイフの足音がするのを聞くや，すぐに姿を消した。

「立去れ（ゴーウエィ），立去れ（ゴーウエィ），オレのことはもう放っておいてくれ」とレイフはダフネに言った。]

G.　[Daphne の植民地への帰還とその殺害]

Makata の Kraal への訪問の途中での殺害。殺害の情報は省略法で提示。語り手による焦点化（＝外的焦点化）の被焦点化子の移動による省略法。つまり，殺害直前の Daphne から Toys が銃を持ってレイヨー撃ちに出掛けたという情報を得た Chakata への被焦点化子の移動。

She had become unused to trekking any distance.　Her energy ebbed after the first mile.　A cloud of locusts caught her attention and automatically she stopped to watch anxiously whether the swarm would settle on Chakata's mealies or miss them.　It passed over.　She sat to rest on a stone, disturbing a baby lizard.　'Go'way.　Go'way,' she heard.

Daphne called aloud, 'God help me.　Life is unbearable.'

A house-boy came running to Chakata who was round by the tobacco shed resting on two sticks.

'Baas Tuys is gone to shoot buck.　The piccanin say he take a gun to shoot buck.'

'Who ?　What ?'

'Baas Tuys with gun,'

'Where ?　Which way ?'

'Is gone by north.　The piccanin have seen him.　Was after lunch piccanin say, he talk that he go to shoot buck.'（269）

[ダフネにはもはや距離の如何にかかわらず歩く習慣がなくなっていた。最初の 1 マイ

ルでエネルギーを使い果たした。イナゴの大群がダフネの注意をひき，ダフネは無意識裡に立ち止まり，この大群がチャカタのトウモロコシ畑に降り立つものかそれとも見過ごすものか心配になって注視した。イナゴの大群は通り過ぎて行った。休むために石に腰を下ろした。そのせいでトカゲの赤ちゃんが出て来た。トカゲの赤ちゃんが「立去れ（ゴーウエィ），立去れ（ゴーウエィ）」と言うのをダフネは聞いた。

「神さま，どうかお救い下さい。生きて行くことに耐えられません」とダフネは声に出して言った。

タバコ小屋の脇を 2 本の杖をついて見回っていたチャカタの元に下働きの少年が駆けて来た。

「トイズの旦那がレイヨー撃ちに出掛けていった。トイズの旦那はレイヨー撃ちに銃を持ち出したってクロンボの子が言っています」

「だれが？　なにを？」

「トイズの旦那が銃を持って」

「どこだ？　どっちだ？」

「北の方に行った。クロンボの子が見かけたって。お昼ご飯の後だって，レイヨー撃ちに行くって言ってましたって」]

H.［Ralph，Daphne の墓参時に the go-away bird の鳴き声を聴く］

After Ralph had looked at the inscription, ‘Daphne du Toit, 1922–1950’, he walked up and down.　He looked blankly at the gravestones and noticed one inscribed ‘Donald Cloete’.　This name seemed familiar, but he could not remember in what way.　Perhaps it was someone Daphne had talked about.

‘Go’way, go’way.’

That was the bird, just behind Daphne’s grave.　She had often mentioned

the bird.

'It says go'way, go'way.'

'Well, what about it ?' he had said to her irritably, for sometimes she had appeared to him, as in a revelation, a personified Stupidity.

She would tell him, 'There's a bird that says "Go'way, go'way",' without connecting the information with any particular event ; she would expect him to be interested, as if he were an ornithologist, not an author.

'Go'way, go'way,' said the bird behind Daphne's grave.

He heard the bird at some time during each day for the next six weeks while he was completing his tour of the rural spaces.（272）

[「ダフネ・ドゥ・トワ 1922-1950」という墓碑を見た後で，レイフは行ったり来たりした。ぼんやりと墓石をみていたが，「ドナルド・クローティ」という墓碑にふと気が付いた。その名前には聞き覚えがあったが，どうにも憶いだせなかった。多分，ダフネが話題にしたことのある誰かなのだろう。

「立去れ（ゴーウエィ），立去れ（ゴーウエィ）」

それは鳥だった。ダフネの墓の陰にいた鳥だった。ダフネはこの鳥のことをよく言っていた。

「立去れ（ゴーウエィ），立去れ（ゴーウエィ）って鳴くのよ」

「それがどうしたって？」とレイフが苛立って言ったこともある。というのも時々，ふと啓示にでも触れたかのようなダフネの振舞いに，ダフネがバカそのものに見えたからだった。

ダフネはレイフに，話の脈絡がなんらないなかで，「立去れ（ゴーウエィ），立去れ（ゴーウエィ）って鳥が鳴くのよ」と言ったものだった，まるで，レイフが作家ではなく鳥類学者ででもあるかのように。

「立去れ（ゴーウエィ），立去れ（ゴーウエィ）」とダフネの墓の陰で鳥が鳴いた。

レイフは，地方まわりの取材旅行を終えるまでの 6 週間毎日毎日この鳥の鳴き声を聞いたのだった。]

5. Daphne の生の軌跡と〈中心－周縁〉，〈中心なき周縁＝クレオール〉という現実

（1） 宗主国－植民地

英国

南アフリカ

（2） 植民地内的状況

英国系

アフリカーナー（クレオール）

カラード

ネィティヴ

（3） 英国内部＊

England

クレオール化

歴史的－現実的状況

クレオール的存在（クレオールとしてのアイデンティティ）である Daphne のいるべき場所：周縁（クレオール）→中心（英国）の希求→中心（英国）の周縁化（クレオール化）→非在あるいは遍在。

中心－周縁の二項対立を超克あるいは脱構築するクレオール（常に既にクラオール化しているという事実あるいは真実。

このような事実･真実を知らぬままに，復讐の念すらなくなったオールド･トイズによってレイヨーと誤認されての若いダフネの死。

植民地主義の犠牲という読み方：すぐれてクレオール的な存在であるダフネがアイデンティティの根拠として求める「英国性」（“Englishness”）。しかし，英国（England）もまた既にクレオール的な存在ではなかったのか？

＊英国の歴史とクレオール性
ブリトン／ローマ／アングロ；サクソン；ジュート；チュートン（ゲルマン民族）／ノルマン人
England > Angles Land

6.　おわりに：Daphne の死は悲劇的か喜劇的か？ ポスト植民地主義的読解を超えて

最後に書き込まれた「カトリック作家として書くことの Spark の自己韜晦」

「鳥類学者（an ornithologist）」のモチーフをめぐって

‘*Birds*.　Is he an ornithologist then?’
‘No, I think he’s R.C.’
‘A *man,* darling, who studies birds.’
‘Oh !　Well, no, he said no, he’s not particularly interested in birds.’
‘How extraordinary,’ she said.　（273）

［「鳥。それじゃ彼って鳥類学者なの？」
「いや，彼はカトリック教徒だと思うよ」
「ねえ，それって鳥を研究している人って意味よ」
「おお，じゃ，違うよ，彼は鳥には特に興味なんてないからね」
「まあ，なんておかしなことなのでしょ」とマイケル・キャスの妻が言った。］

「作家」－〈鳥類学者〉－「カトリック」の意味するところは？

Ralph＝R. C.＝Spark？：カトリック的な〈神－人間〉の関係
〈神の如き〉全知の視点 → 全知の〈神〉の視点の採用
Spark 自身の全知の〈神〉の視点の採用：自己言及
Spark にとって，小説家として書くこととは？
そして，カトリック作家の三人称の偏愛のわけとは？

使用テキスト：Muriel Spark. *All the Stories of Muriel Spark*. New York : New Direction, 2000.

固有名の剥奪，名づけえぬものの歓待
—— ジョゼフ・コンラッド「ある船の話」の “room” における周縁

井　出　達　郎

本講義は，ジョゼフ・コンラッドが 1925 年に発表した短編「ある船の話（“The Tale”）」を取り上げ, 連続講義全体のテーマとなっている「周縁」という視点から論じるものである。この短編は，単に “tale” と題されているように，登場人物も場所もことごとく固有名が削ぎ落とされており,「ある男」が「ある女」に,「ある船」で起こった出来事を「ある部屋」の中で語る，というかたちをとっている。今回の講義では，その形式と内容が互いに関連し合いながら，周縁という場所の問題が，何よりも名前というモチーフと自然につながっていくことを浮き彫りにしていく。そして最終的に，名前の問題が舞台となっている “room” という小さな空間へと結びつき，周縁という場所が持つ両義的な意味 —— 固有名の剥奪と，名づけえぬものの歓待 —— が浮かび上がってくることを明らかにしたい。

1.　周縁という場所と固有名の剥奪

物語は日没の時刻に暗闇に沈んでいく「ある部屋」の描写から始まる。その部屋には一人の男と一人の女がいる。名前，関係，目的などが何も説明されないまま，女の「何かお話をしてほしい」という誘いを受け，男が「どこかある世界で起こった」という前提で「ある話（a tale）」を話し始

める。その「ある話」とは，世界大戦の最中のイギリスの巡視船の司令官をめぐるものだった。航海をしていたあるとき，司令官は霧の中で身元不明の船に出会う。その身元不明の船の船長は自分たちを「中立国」のものだと主張するが，司令官はそれを信じることができない。そして，敵国の船ではないかという疑念を払うことができなかった司令官は，その船にあえて暗礁への航路から退去するに命じる。司令官の思惑は，その船の船長らが嘘をついており，暗礁への航路を避けることでそれが明らかになる，というものであった。だが船は命令に素直に従って暗礁へと航路をとり，そのまま沈没してしまう。以上の「ある話」を話し終えたあと，男はその司令官が実は自分であったことを告白する。

男が話す「ある話」は，世界大戦のような国が国境を越えて混じり合う大きな場を舞台にしながらも，その話が明らかにされるのは国際裁判のような大きな場ではなく，ひとりの女だけによって聞かれる極めて小さな場所，周縁というべき場所において語られる。だがこの作品における周縁という問題は，そうした空間において描かれる以上に，名前というモチーフにおいて，特に，固有名が剥奪されるという出来事において描かれている。固有名の剥奪という出来事は，何よりもまず，沈んでしまった中立国の船の船長とのやりとりにみてとることができる。濃い霧の中で突如として現れたその中立国の船に対して，司令官であった語り手の男は敵国に救援物資を渡しているのではないかと疑い，その船の船長の側からされる中立国であるという主張を信じることができない。このとき見逃せないのが，男が信じることができないその話が “the tale” と表記されている点である。“tale” という語は，いうまでもなく，固有名をもたない「ある男」と「ある女」の語りによって始められている作品そのもののタイトルに重なっている。この入れ子の構造は，“tale” を話す中立国の船長もまた，固有名を

もたない存在であることを示唆している。

同じことは船長の「中立国」という所属からも読みとれる。原文の英語では “neutral” となるこの語は，語源的な成り立ちとして，「どちらでも」を意味する “utral” という部分と，「ない」という否定を意味する “ne” という接頭語とが組み合わさってできている。その組み合わせは，「中立である」という肯定の意味ではなく,「どちらでもない」という否定の意味で，特定することができない状態，すなわち，固有名として名づけられない状態を示唆するものになっている。

さらにこの作品で特徴的なのは，沈んでしまった船において分かりやすく強調されている固有名の剥奪という出来事が，実のところ，命令を下す側である主人公の男にも当てはまる点にある。力を行使する側にいる男もまた周縁的な存在であることは，何よりも，彼が「部屋」という場所にいる名も無き “a man” として登場するという根本的な設定にみることができる。加えて，“a man” として語る話の中で，後に彼自身であることがわかる司令官についても，ただ “the commanding officer” と表記されているだけである。外枠の語りにおいても，内枠の語りの中においても，男に固有名が与えられることはない。

男が固有名を剥奪されていることは，さらに，彼が “command” を下す立場にあるという点に逆説的に示されている。男が “commanding officer” として中立国の船に立ち退きを命じるとき，男は国という境界線を越えるようにして，国際法的な立場から権力を行使しているといえる。憲法学者である木村草太は，そもそも法というものが機能するためには，「すべての人に対して，状況によってはその法の適用を受ける可能性が開かれていなければいけない」（大澤／木村　20）という理由から，「固有名を使ってはいけない」という条件があると述べ，その条件が最高に発揮されるのが

国際法であると指摘している。国際法とは，国というそれぞれの境界を横断するようにして，「すべての人」という抽象化が最も求められるためである。木村の論を援用すれば，男が中立国に対して “command” を下すという行為は，そのまま自らの固有名を失う行為を意味することになる。この意味で，権力を行使される “neutral” な存在に加えて，“commanding officer” である彼もまた，固有名の剥奪という出来事を通して周縁化されている。

2. 周縁のもう一つの可能性 —— 名づけえぬものの歓待

こうして作品は，固有名の剥奪という出来事を通して周縁を描いている。しかしそこで特異なのは，そこで描かれる周縁という場所が，単に周縁化された存在が押しやられるという否定的なものというだけでなく，そのようにして名を奪われたものたちを受け入れる場に反転する可能性を秘めていること，すなわち，名づけえぬものを歓待する場に反転する可能性を秘めていることも描かれている点にある。

周縁という場が秘める歓待の可能性は，「ある船の話」を男が始める前，その語りの舞台となっている部屋の場面において，予告的に暗示されている。冒頭間もない場面において，女は何の前触れもなく，唐突に「何かを話して」と男に言う。この唐突な頼みを語り手は，「きまぐれな意志（capricious will）」と表現しながらも，それをひとつの「法（a law）」のように感じ，それに従うかたちで話始めることになる。理由もなく相手が言ってきたことに従うというこのエピソードは，続く「ある船の話」の中で起こる，よくわからないものをそのまま受け入れる行為，つまり，歓待という行為の確かな予告になっている。

そのようにして始められる「ある船の話」の中には，はっきりと歓待と

いう出来事が描き込まれていく。それは何よりも，司令官の男が下す退去の命令に，最終的には中立国の船長が従ってしまうという展開に見てとることができる。一見すると，死刑までほのめかされた中立国の船長がとった行動は単に司令官を恐れた結果でしかなく，歓待するといった行為にはとても見えないように感じられるかもしれない。しかし少なくとも，結果として従ったその行為には，他者を無条件に受け入れるという歓待の意味合いが確かに含まれている。歓待というテーマについて思索したフランスの哲学者のジャック・デリダは，たとえ死の危険があろうとも，むしろそうした危険があるときに，無条件に受け入れることが歓待である，という刺激的な考えを提示している。『歓待について』と題された著作の中でデリダは，聖書のエピソードをひきながら，「絶対的な歓待」のためには，「異邦人に対してだけではなく，絶対的な他者，知られざる匿名の他者に対しても贈与しなくてはなりません」（デリダ　64）と述べ，歓待という行為がもつ徹底さを強調している。到来した匿名の他者に対して場を提供する，何も要求せず，名前さえ尋ねないといったこの歓待の考え方は，それだけ見れば，中立国の船長の行動にそのまま重なっている。

この暗示的にほのめかされる歓待のモチーフは，話をすべて聞き終わった後，女がとる行動によってはっきりと前景化される。自分でさえも名づけようもない過去の行為を告白した男に対して，女は涙を流しながら，男を抱きしめる。男は正しいことをしたのか，誤ったことをしたのか，という二者択一の問いをそのままにしたままで，女は男を何の条件もなく受け入れる。固有名の剥奪という出来事を通して描かれてきた周縁という場所は，このとき，名づけえぬものの歓待というもう一つの場所でありうる可能性を示している。

3. 余白としての “room”

物語の終わりの数行は，この歓待の場としての周縁の可能性を開かせながら，そもそもこの物語の舞台となっていた “room” という場所について考察する手がかりを与えているように思われる。最後の別れの場面において，女は「ああ，私のかわいそうな，かわいそうな ―― (Oh my poor, poor ―)」(81) と呼びかけ，男は「俺にはずっとわからない」と言いながら部屋を出ていく。この最後の言葉で重要なのは，どちらの言葉も男の存在を不確かなままにさせるもの，言い換えれば，男の存在に「余白」を残すものになっていることである。女の方は，“Oh my poor, poor ―” という言葉を発した後，男が何ものなのかを示すはずの “poor” の後の部分が，ダッシュによって，文字通り余白になっている。そして男の方もまた，告白の最後の「自分はどちらだったのか」という問いをひきずりながら，そのどちらにも答えを出すことなく，自分自身に対して「余白」を残しつづける。この二人の言葉は，“room” という語がもともと持つ「余白」「可能性」といった意味をそのまま重なりながら，自らを名づけえぬものとして保ち続けている。

最終的に部屋を出ていく男は，「ある部屋」における「ある男」という存在から，再び固有名を持つ存在，名指しされる存在へと戻るほかない。しかし男が出ていく一方で彼を抱きしめた女が部屋に残り続けることは，名づけえぬものに対する歓待の可能性が残りつづけていくことを示しているように思われる。コンラッドの描く周縁とは，固有名の剥奪という出来事の場であると同時に，名づけえぬものを歓待するという特異な「部屋／余白」という場としてある。

引用文献（当日の公開講義の中で扱ったものも含む）

Conrad, Joseph. *Heart of Darkness*. 1899. New York : Norton, 2006.
————. “The Tale” 1925. *The Corrected Works of Joseph Conrad*. Vol. XXII. London : Routledge, 1995. Print.
Stape, J.H. The Cambridge companion to Joseph Conrad. New York : Cambridge UP, 1996. Print.
大澤真幸／木村草太『憲法の条件 —— 戦後 70 年から考える』NHK 出版新書, 2015 年。Print.
ジャック・デリダ『歓待について —— パリのゼミナールの記録』廣瀬浩司訳，産業図書，1999 年。Print.
武田ちあき『コンラッド』勉誠出版，2005 年。Print.

ユートピアという／の周縁と「希望の原理」

川　田　　潤

I.　ユートピアの誕生 :『ユートピア』（1516 年）
～周縁の場としてのユートピア

1.　Utopia ということば

トマス・モア（1478-1535）の造語
「初 16c ;　ギリシア語の ou-（…ない = out）+ topos（場所）　どこにもない所が原義」＋ eu　良い　+ topos　　→　utopia = 幸福な場所／不在の場所

2.　周縁の文学として

★『ユートピア』（1516 年）の粗筋

第一巻はユートピアに訪問したヒュトロダエウスという人物とピーター・ヒレスとの間で同時代のヨーロッパ，イギリスの現状をめぐる対話。

第二巻は，ヒュトロダエウスによる，理想国家ユートピア国の制度などの説明。主な特徴としては，貨幣がなく，全員が六時間の農業労働，鎖国。原書はラテン語。

3.　ユートピアへ：ポルトガル→（南）アメリカ

彼［ヒュトロダエウス］は世界を見たいという望みから，故郷〔彼はポルトガル人です〕にあった自分の財産を兄弟たちにゆずり，アメリーゴ・ヴェスプッチの仲間になりました。そして最近あちこちで読まれているあの四回の航海のうちのあとの三回の航海にはずっと同行していました。その最後の航海からアメリーゴといっしょに帰国しませんでしたが，それまではいつもアメリーゴの仲間だったのです。（モア 56）

4.　ユートピアから：→セイロン，カリカット→ポルトガル

ところで，彼はヴェスプッチの出発後，城塞に残った同伴のうちの五人といっしょにたくさんの国々を歴訪し，奇跡的な偶然のおかげでついにセイロンにたどりつき，そこからカリカットに出てきました。そこで，ぐあいよくポルトガルの船団に出くわし，ついに期待もしていなかったのにふたたび祖国（パトリア）に帰ってきたのです。（モア 59-60）

II.　ユートピアの中心化と周縁化：マルクス，エンゲルス（1880 年）
～周縁の場に追いやられるユートピア

5.　奇妙な国

トマス・モアは彼の『ユートピア』で，「羊が人間を食い尽くす」奇妙な国のことを語っている。（マルクス 941）

6.　ユートピア ＝ 空想社会主義批判

社会制度の新しい，より完全な体系を考えだして，これを宣伝によって，できれば模範的実験の実例をつうじて，社会に外から押しつけることが必要であった。これらの新しい社会体系は，ユートピアになるという運命を

はじめから宣告されていた。それらが細目にわたって詳しく仕上げられれば仕上げられるほど，ますますそれらはまったくの空想にならざるをえなかった。（エンゲルス 43）

7.　ユートピアの文学・文化における中心化→批判

ユートピア社会主義者たちの考え方は，一九世紀の社会主義的観念を長いあいだ支配してきたし，部分的にはいまでも支配している。……これは，さまざまの宗派の開祖たちの批判的発言や経済学上の命題や未来社会についての構想のうちから，あまりあたりさわりのないものを寄せ集めたものである。……社会主義を科学にするためには，まずそれを実在的な基盤の上にすえなければならなかった。（エンゲルス 60）

8.　文学の中心としてのユートピア

●エドワード・ベラミー『かえりみれば』（1888 年）

2000 年ボストンが舞台。中心化された経済・国家。国民全員の労働，生産性の倍増。クレジットによる商品の取引。競争の排除と利己心の排除

●ウィリアム・モリス『ユートピア便り』（1890 年）

22 世紀のロンドンが舞台。機械文明批判，国家社会主義批判。私有財産の否定。家庭を中心とした，周縁化された国家

9.　ユートピアの周縁化

●アーネスト・カレンバック『エコトピア』（1975 年）

1999 年のアメリカ西海岸が舞台。アメリカから分離独立した国家への潜入レポート。現代の産業中心の文明（エネルギー問題など）を批判した国

家システムを描く。

●レベッカ・ソルニット『災害ユートピア』（2009 年）
地震，洪水，スリーマイル島，9.11 などの現実の災害に直面したときに，そこに自然に発生する相互互助的システムの報告，分析。

III.　ユートピアの終焉：『一九八四年』（1949 年）
～中心化したユートピア ＝ ディストピア

10.　ディストピア

★『一九八四年』（1949）の粗筋
　核戦争後の一九八四年のロンドンが舞台。世界はオセアニア，ユーラシア，イースタシアの三大国に支配されている。オセアニアはビッグ・ブラザーが支配しており，国中に監視体制がひかれ，言語の支配なども行われている。主人公ウィンストン・スミスは歴史記録を改ざんする省庁で働いているが，彼は徐々に現体制への疑問を感じ始める。ジュリアとの愛，オブライエンとの結びつきによって，徐々に反体制の考えを固める。ところが，密告を受け，とらえられ，尋問・洗脳を受け，最終的には現体制を肯定する人物となる。

第一部　中心化した管理社会

11.　舞台はロンドン

— this was London, chief city of Airstrip One, itself the third most populous of the provinces Oceania.　He［Winston］tried to squeeze out some childhood memory that should tell him whether London had always been quite like this. Were there always these vistas of rotting nineteenth-century houses....

（Orwell 5）

これがロンドン，オセアニアで三番目に人口の多い地域である〈第一エアストリップ〉の首都なのだ。彼［ウィンストン］は子どもの頃の記憶を必死にたぐり寄せながら，ロンドンが昔からずっとこんな風であったのかを思い出そうとした。朽ちかけている十九世紀の家並み……という眺めはずっと前からこうだったのだろうか？（オーウェル 10）

12.　ビッグ・ブラザー

On each landing, opposite the lift shaft, the poster with the enourmous face gazed from the wall.　It was one of those pictures which are so contrived that the eyes follow you about when you move.　BIG BROTHER IS WATCHING YOU, the caption beneath it ran.（Orwell 3）

階段の踊り場では，エレベーターの向いの壁から巨大な顔のポスターが見つめている。こちらがどう動いてもずっと目が追いかけてくるように描かれた絵の一つだった。絵の下には“**ビッグ・ブラザーがあなたを見ている**”というキャプションがついていた。（オーウェル 8）

13.　テレスクリーン

Behind Winston's back the voice from the telescreen was still babbling away about pig-iron and the overfulfilment of the Ninth Three-Year plan.　The telescreen received and transmitted simultaneously.　And sound that Winston made, above the level of a very low whisper, would be picked up by it ; moreover, so long as he remained within the field of vision which the metal plaque

commanded, he could be seen as well as heard.（Orwell 4-5）

ウィンストンの背後では相変わらずテレスクリーンから声が流れ，銑鉄の生産と第九次三カ年計画の早期達成についてあれこれしゃべっている。テレスクリーンは受信と発信を同時に行なう。声を殺して囁くくらいは可能だとしても，ウィンストンがそれ以上の音を立てると，どんな音でもテレスクリーンが拾ってしまう。さらに金属板の視界内に留まっている限り，音だけで無く，こちらの行動も補足されてしまうのだった。（オーウェル 9）

14.　ニュースピーク

‘We're getting the language［Newspeak］into its final shape....　You think, I dare say, that our chief job is inventing new words.　But not a bit of it！　We're destroying words....　It's a beautiful thing, the destruction of words.　Of course the great wastage is in the verbs and adjectives, but there are hundreds of nouns that can be get rid of as well.（Orwell 59）

ニュースピークを最終的な形に仕上げようとしているんだ……　おそらく君はわれわれの主たる職務が新語の発明だと思っているだろう。ところがどっこい，われわれはことばを破壊しているんだ……麗しいことなんだよ，単語を破壊するというのは。言うまでも無く最大の無駄が見られるのは動詞と形容詞だが，名詞にも抹消すべきものが何百かはあるね。

（オーウェル　80）

15.　過去の改ざん

‘Who controls the past,’ ran the Party slogan, ‘controls the future：who con-

trols the present controls the past.’（Orwell 40）

党のスローガンは言う，過去をコントロールするものは未来をコントロールし，現在をコントロールするものは過去をコントロールする　と。

（オーウェル 56）

第二部　脱出の試み／第三部　完全閉塞

16.　希望（1）：労働者階級

If there is hope, wrote Winston, *it lies in the proles*.（Orwell 80）

「希望があるとしたら」ウィンストンは書いた，「それはプロールの中」

（オーウェル 108）

17.　希望（2）：権力の虚偽の暴露

Of course, this was not in itself a discovery.　Even at that time Winston had not imagined that the people who were wiped out in the urges had actually committed the crimes that they were accused of.　But this was concrete evidence ; it was a fragment of the abolished past, like a fossil bone which turns up in the wrong stratum and destroys a geological theory.　It was enough to blow the Party to atoms, if in some way it could have been published to the world and its significance made known.（Orwell 90）

もちろんこれ自体は新発見でも何でもなかった。その当時でさえウィンストンは，粛清で一掃された人々が告発された罪を本当に犯したとは露ほども信じていなかった。だがこれは具体的な証拠なのだ。破棄された過去の

断片であり，想定外の地層から現れて地質学上の仮説を覆す化石に相当するものだった。これが何らかの形で世間に披露され，その意味が広く知られるところとなれば，党を木端微塵にできるだろう。（オーウェル 121）

18.　希望（3）：テレスクリーンの死角

‘There’s no telescreen !’　he could not help murmuring.

‘Ah,’ said the old man, ‘I never had one of those things.　Too expensive.　And I never seemed to feel the need of it, somehow....’（Orwell 111）

「テレスクリーンがないのか !」彼は思わず呟いた。

「ああ」老店主は言った。「そうしたものは何ひとつ，持ったことがありません。高過ぎますし。それに何というか，必要を感じたこともありませんから。」（オーウェル 148-49）

19.　希望（4）：セクシュアリティ

Their embrace had been a battle, the climax a victory.　It was a blow struck against the Party.　It was a political act.（Orwell 145）

二人［ウィンストンとジュリア］の抱擁は戦いであり，絶頂は勝利だった。それは党に対して加えられた一撃，それは一つの政治的行為なのだ。

（オーウェル 195）

20.　希望（5）：叛乱する同志

‘Then there is such a person as Goldstein ?’　he said.

‘Yes, there is such a person, and he is alive.　Where, I do not know.’

‘And the conspiracy—the organization ?　It is real ?　It is not simply an invention of the Thought Police ?’
‘No, it is real.　The brotherhood, we call it....’（Orwell 198）

「それではゴールドスタインという人物はいるのですね？」ウィンストンは言った。
「そうです。そういう人物はいる。そして生きています。どこにいるか，それは分かりませんが」
「そして例の陰謀 ― 例の組織は？　本当に存在するのですか？〈思考警察〉がでって挙げた話ではないのですか？」
「ええ，実在します。われわれは〈ブラザー同盟〉と呼んでいます……」
（オーウェル 265）

21.　希望（6）：内面

No ; that’s quite true.　They can’t get inside you.　If you can feel that staying human is worth while, even when it can’t have any result whatever, you’ve beaten them.（Orwell 192）

全くその通り。かれらも人の心のなかにまでは入り込めない。もし人間らしさを失わずにいることは，たとえ何の結果を生み出さなくてとも，それだけの価値があると本気で感じられるならば，かれらを打ち負かしたことになる。（オーウェル 257）

22.　希望（7）：人間の精神

‘No.　I believe it.　I know that you［the Party］will fail.　There is something

in the universe—I don't know, some spirit, some principle—that you will never overcome.'

'Do you believe in God, Winston ?'

'No'

'Then what is it, this principle that will defeat us ?'

'I don't know.　The spirit of Man.'（Orwell 309）

「いいえ。わたしが信じているだけです。あたな方が失敗すると分かっているんです。宇宙には何か — わたしには分かりませんが，精神とか原理といったようなもので — あなた方が絶対に打ち勝つことのできないものがあるんです」

「神の存在を信じているのかね，ウィンストン ?」

「いいえ」

「それならわれわれを打ち破るというその原理とは，いったい何なのだ ?」

「分かりません。『人間』の精神です」（オーウェル 418）

23.　ディストピア

It is the exact opposite of the stupid hedonistic Utopias that the old reformers imagined.　A world of fear and treachery and torment, a world of trampling and being trampled upon, a world which will grow not less but *more* merciless as it refines itself.（Orwell 306）

それは過去の改革家たちが夢想した愚かしい快楽主義的なユートピアの対極に位置するものだ。恐怖と裏切りと拷問の世界，人を踏みつけにし，人に踏みつけにされる世界，純化が進むにつれて，残酷なことが減るのではなく増えていく世界なのだ。（オーウェル 414）

IV.　ディストピアの周縁：『1Q84』（2009, 2010 年）
～脱中心化したディストピア

24.　ディストピア？

★『1Q84』の粗筋

舞台は 1984 年の東京。青豆（女性）は女性を虐待する男性を暗殺する人物。天吾（男性）は小説家志望の予備校教師。

天吾はあるとき少女の書いた『空気さなぎ』という小説の書き直しを依頼される。そして，徐々に現実の 1984 年の東京は 1Q84 年の東京へと変貌する。そこはリトル・ピープルが暗躍する月が二つある世界。やがて，青豆と天吾は……

25.　ユートピアの不在

しかし言うまでもないことだが，ユートピアなんていうものは，どこの世界にも存在しない。錬金術や永久運動がどこにもないのと同じだよ。……人の頭から，自分でものを考える回線を取り外してしまう。ジョージ･オーウェルが小説に書いたのと同じような世界だよ。（BOOK 1 前編 285）

26.　脱中心化したディストピアへ

ジョージ･オーウェルは『一九八四年』の中に，君もご存じのとおり，ビッグ・ブラザーという独裁者を登場させた。もちろんスターリニズムを寓話（ぐうわ）化したものだ。そしてビッグ・ブラザーという言葉（ターム）は，以来ひとつの社会的アイコンとして機能するようになった。それはオーウェルの功績だ。しかしこの現実の一九八四年にあっては，ビッグ・ブラザーはあまりにも有名になり，あまりにも見え透いた存在になってしまった。もしここにビッ

グ・ブラザーが現れたなら，我々はその人物を指さしてこう言うだろう，『気をつけろ。あいつはビッグ・ブラザーだ!』と。言い換えるなら，この現実の世界にもうビッグ・ブラザーの出てくる幕はないんだよ。そのかわりに，このリトル・ピープルなるものが登場してきた。なかなか興味深い言葉の対比だと思わないか？（BOOK 1 後編 193）

27. 『一九八四年』は中心化と脱中心化

‘In that sense, does Big Brother exist ?’
‘It is of no importance.　He exists.’
‘Will Big Brother ever die ?’
‘Of course not.　How could he die ? ....’（Orwell 297）

「……そういう意味で〈ビッグ・ブラザー〉は存在しているのですか？」
「そんなことは重要ではないな。彼は存在する」
「〈ビッグ・ブラザー〉は死ぬことがあるのですか？」
「もちろん死なない。死ぬはずがないだろう。……」（オーウェル 402）

28. 過去の改ざん

そう，今年がちょうど一九八四年だ。未来もいつかは現実になる。そしてそれはすぐに過去になってしまう。ジョージ・オーウェルはその小説の中で，未来を全体主義に支配された暗い社会として描いた。人々はビッグ・ブラザーという独裁者によって厳しく管理されている。情報は制御され，歴史は休むことなく書き換えられる。主人公は役所に勤めて，たしか言葉を書き換える部署で仕事をしているんだ。新しい歴史が作られると，古い歴史はすべて廃棄される。それにあわせて言葉も作り替えられ，今ある言

葉も意味が変更されていく。歴史はあまりにも頻繁に書き換えられているために，そのうちに何が真実だか誰にもわからなくなってしまう。誰が敵で誰が味方なのかもわからなくなってくる。そんな話だよ。

（BOOK 1 後編 240）

29.　システム = 脱中心化した権力

しかしシステムというのはいったん形作られれば，それ自体の生命を持ち始めるものだ。（BOOK 2 前編 313）

30.　脱出ルート

……私は抜き差しならないほどその物語に含まれていた。だからこそ私は今ここにいるのだと。あくまで受け身の存在として。言うなれば，深い霧の中をさまよう混乱した無知な脇役として。

でもそれだけじゃないんだと青豆は思う。それだけじゃない。

私は誰かの意志に巻き込まれ，心ならずもここに運び込まれたただの受動的な存在ではない。たしかにそういう部分もあるだろう。でも同時に，私はここにいることを自ら選び取ってもいる。

ここにいることは私自身の主体的な意志でもあるのだ。

（BOOK 3 後編 230）

31.　フィクションの現実化

ここは見世物の世界
何から何までつくりもの
でも私を信じてくれたなら
すべてが本物になる

何があっても，どんなことをしても，私の力でそれを本物にしなくてはならない。（BOOK 3 後編 375）

V.　希望の原理としてのユートピア：『希望の原理』（1959 年）～ユートピアの脱中心化

32.　未だ意識されないものとしてのユートピア

人間のなかの未だ意識されないものは，こうしてどこまでも世界のなかの未だ成らざるもの，未開発のもの，未だ顕在していないものに属する。いまだ　意識されないものは，未だ成らざるものと連絡し，相互作用をおこなう。より特殊的には，歴史と世界の中に浮上しつつあるものと連絡し，作用しあう。（ブロッホ　第一巻 30）

33.　来たるべきものとしてのユートピア

未だ意識されないものはもっぱら，来たるべきものの前意識であり，新しいものの心理的な誕生の地である。さらにそれがほかならぬ前意識であるわけは，まさにそれ自身のなかに，まだ完全には明らかになっていない意識内容があり，未来からようやく明るくなってきつつある意識内容があるからである。（ブロッホ　第一巻 165）

34.　ユートピアを過去ではなく未来へ

……現在という実体は結局は過去を美化することに終わる。……つまるところプラトン的アナムネーシス論，つまり生誕以前の充実の失われた源泉への回帰としての記憶という原理である……。希望の学説は，一つではなく二つの基本的な哲学上の敵 ― ニヒリズムとアナムネーシス ― をもっている。あるいは別の形で言えば，希望の経験は，一つではなく二つの対立

物 ― 不安と記憶 ― をもっている。……　フロイトの無意識は，もはや＝意識＝されない＝もの……。新しく非常に異なった型の無意識，空白，あるいは今度は過去ではなく未来によって形成される意識の地平……ブロッホが，まだ＝意識＝されない＝ものと呼ぶもの……。

（ジェイムスン『弁証法的批評の冒険』94）

35.　制度ではなく兆候へ

だが，エルンスト・ブロッホのライフワークは，ユートピアとはその個々のテクストの総計よりもずっと大きなものであると私たちに思い出させてくれる。ブロッホは，人生と文化のあらゆる未来志向の要素を規定しているユートピア的衝動なるものを措定した。ユートピア的衝動は，ゲームから似而非特効薬まで，神話から大衆娯楽まで，図像学からテクノロジーまで，建築からエロスまで，観光旅行からジョークと無意識まで，あらゆるものを包含している。（ジェイムソン『未来の考古学 I』16-17）

VI.　『一九八四年』における希望の原理
～ユートピア的衝動 = 脱中心化と脱周縁化

36.　脱出ルート 1：時間

Newspeak was the official language of Oceania and had been devised to meet the ideological needs of Ingsoc, or English Socialism.（Orwell 343）

ニュースピークはオセアニアの公用語であり，元来，イングソック（Ingsoc），つまりイギリス社会主義（English Socialism），のの奉ずるイデオロギー上の要請に応えるために考案されたものであった。（オーウェル 481）

7.　脱出ルート 2：日記

The thing that he was about to do was to open a diary....

April 4th, 1984

For whom, it suddenly occurred to him to wonder, was he writing this diary ? For the future, for the unborn....　How could you communicate with the future ?　It was of its nature impossible.　Either the future would resemble the present, in which case it would not listen to him ; or it would be different from it, and his predicament would be meaningless.（Orwell 9-19）

彼のやろうとしていること，それは日記を始める事だった。……

一九八四年四月四日

ふと彼は疑問に思った。自分はこの日記を誰のために書いているのか？未来のため，まだ生まれぬものたちのためか。……どうやって未来と意思疎通ができるというのだ？　その試みの本質からして不可能ではないか。未来は現在と似たものかもしれない。その場合には誰も耳を貸そうとはしないだろう。或いは，現在と異なっているかもしれない。そうであれば我が身のこの苦境など無意味なものとなる。（オーウェル 15-16）

38.　脱出ルート 3：唯我論

‘The word you are trying to think of is solipsism.　But you are mistaken. This is not solipsism.　Collective solipsism, if you like.　But that is a different thing ; in fact, the opposite thing.”（Orwell 305）

「君の思い出そうとしていることばは唯我論だ。ただ間違ってもらっては困る。わたしの言っているのは唯我論ではない。まあ，集団的唯我論といっ

てもいいがね。だがこの二つは別物，実のところ，対極にあるものなのだ」

（オーウェル 413）

主要参考文献

エンゲルス『空想から科学へ』寺沢恒信訳　大月書店，2009 年.
オーウェル，ジョージ『一九八四年』高橋和久訳　早川書房，2009 年.［George Orwell, *Nineteen Eighty-Four*.　Penguin Books, 2013.］
カレンバック，アーネスト『緑の国エコトピア（上下）』三輪妙子訳　ほんの木，1992 年.
ジェイムスン, フレドリック『弁証法的批評の冒険』荒川幾男他訳　晶文社, 1980 年.
————『未来の考古学 I』秦邦生訳　作品社，2011 年.
ソルニット，レベッカ『災害ユートピア』高月園子訳　亜紀書房，2010 年.
ブロッホ，エルンスト『希望の原理』全 3 巻．山下肇他訳　白水社，2001 年.
ベラミー，エドワード『かえりみれば』中里明彦訳　研究社，1975 年.
『マルクス＝エンゲルス全集』第 23 巻第 2 分冊　大内兵衛他訳　大月書店，1965 年.
モア，トマス『改訂版ユートピア』沢田昭夫訳　中央公論社，1993 年.
村上春樹『IQ84』文庫版　6 BOOKS.　新潮社，2012 年.
モリス，ウィリアム『ユートピア便り』川端康雄訳　岩波書店，2013 年.

東北学院大学論集（英語英文学）第 99 号目次

（2015 年 3 月）

論文

1. Japanese University Students' Task Representations of Paraphrasing and their Experience with it
……Fumiko Yoshimura （ 1）

平成 **26**（**2014**）年度文学部英文学科公開講義
「異文化間コミュニケーションへの招待」**Proceedings**

1. Culture, Identity and Cross-Cultural Adjustment
……Keith Adams （ 25）

2. Intercultural Communication Issues between Japanese & Americans……Neil L.R. Tate （ 37）
3. Intercultural Communication and Stereotypes
……Christopher Long （ 49）

4. 男性・女性翻訳者が女の言葉を訳すとき
……古川　弘子 （ 65）

東北学院大学学術研究会

会　　長　松本　宣郎

評議員長
編集委員長　小宮　友根

評　議　員

文学部　植松　靖夫（編集）
佐々木勝彦（編集）
熊谷　公男（会計）
経済学部　舟島　義人（編集）
白鳥　圭志（編集）
小宮　友根（評議員長・編集委員長）
経営学部　矢口　義教（編集）
小池　和彰（会計）
折橋　伸哉（編集）
法学部　岡田　康夫（庶務）
白井　培嗣（編集）
大窪　　誠（編集）
教養学部　前田　明伸（編集）
伊藤　春樹（庶務）
上之郷高志（編集）
柳井　雅也（編集）

東北学院大学論集　— 英語英文学 —　第 100 号

2016 年 3 月 12 日　印 刷
2016 年 3 月 15 日　発 行

（非売品）

編集兼発行人　小　宮　友　根
印　刷　者　笹　氣　義　幸
印　刷　所　笹氣出版印刷株式会社
発　行　所　東北学院大学学術研究会
〒 980-8511　仙台市青葉区土樋一丁目 3 番 1 号
（東北学院大学内）

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY REVIEW

Essays and Studies in English Language and Literature

No. 100 March, 2016

CONTENTS

Article

1. Developing an English Grammar Diagnostic Test for Japanese EFL Learners ····· Hitoshi MURANOI (1)

Proceedings of the Open Lectures 2015

1. Voice Against Marginalization : Reading Aphra Behn's *Love-Letters between a Nobleman and His Sister* ····· Wataru FUKUSHI (47)
2. From Periphery to Center, then to Periphery without Center : A Reading of Muriel Spark's *The Go-Away Bird* ····· Kenichi ENDO (59)
3. From the Deprivation of Names to the Hospitality to the Unnamable : "Room" as Asylum in Joseph Conrad's "The Tale" ····· Tatsuro IDE (87)
4. Utopia as Periphery/Periphery of Utopia and "the Principle of Hope" ····· Jun KAWATA (95)

The Research Association
Tohoku Gakuin University,
Sendai, Japan